

町並みかわら版

臨時増刊
2020年2月1日
全国町並み保存連盟
The Japanese Association
for MACHI-NAMI
Conservation and Regeneration

★祝 第42回全国町並みゼミ川越大会

全国町並み保存連盟の仲間たち

北海道・東北ブロック

- ①小樽・朝里のまちづくりの会
- ②函館の歴史的風土を守る会
- ③NPO法人盛岡まち並み塾
- ④会津復古会
- ⑤大内宿保存会
- ⑥蔵の会

関東ブロック

- ①認定NPO法人共楽館を考える集い
- ②NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会
- ③ディスカバーまかべ
- ④栃木蔵街暖簾会
- ⑤NPO法人本一・本二まちづくりの会
- ⑥NPO法人川越蔵の会
- ⑦NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
- ⑧NPO法人たいとう歴史都市研究会

北陸・甲信越ブロック

- ①新潟まち遺産の会
- ②越後村上・城下町まちなみの会＋むらかみ町屋再生プロジェクト
- ③NPO法人歴史センター大聖寺
- ④若狭熊川宿まちづくり特別委員会
- ⑤公益財団法人妻籠を愛する会
- ⑥NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会
- ⑦NPO法人小諸町並み研究会

東海ブロック

- ①一般社団法人恵那市観光協会岩村支部
- ②美濃の町並みを愛する会
- ③一般社団法人飛騨市観光協会
- ④白川郷荻町集落の自然環境を守る会
- ⑤有松まちづくりの会
- ⑥有松まち普請の会
- ⑦NPO法人犬山城下町を守る会
- ⑧足助観光協会
- ⑨NPO法人伊勢河崎まちづくり衆
- ⑩NPO法人二見浦・寛日館の会
- ⑪あいの会「松坂」
- ⑫NPO東海道関宿

関西ブロック

- ①京都東山観光散策道路を守る会
- ②NPO法人京町家再生研究会
- ③京都・美山・北村かやぶきの里保存会
- ④港まち神戸を愛する会
- ⑤霞城文化自然保勝会
- ⑥口銀谷の町並みをつくる会
- ⑦豊岡まちなみ連盟
- ⑧湯浅伝建地区保存協議会
- ⑨公益社団法人奈良まちづくりセンター
- ⑩今井町町並み保存会

中国・四国ブロック

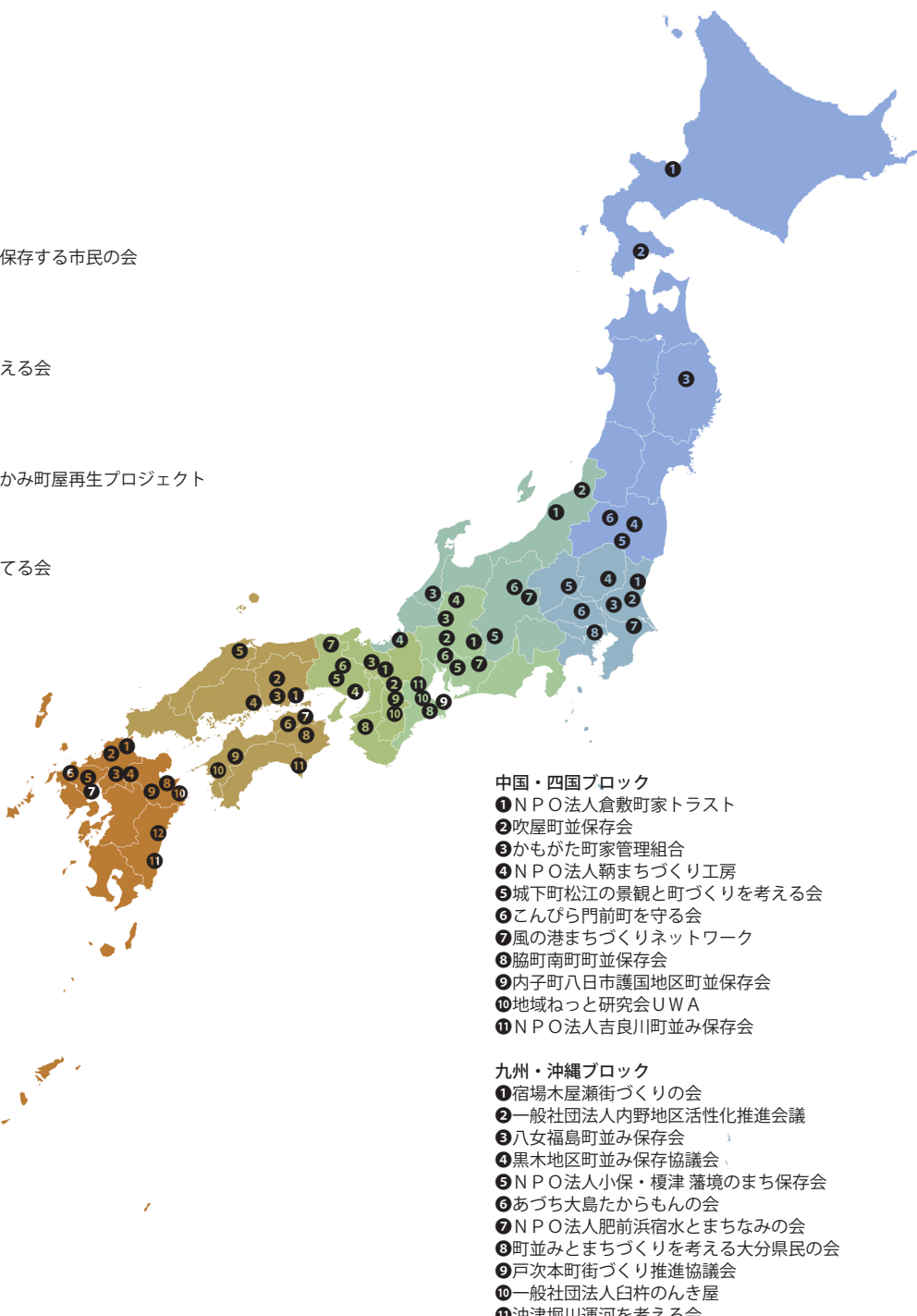
- ①NPO法人倉敷町家トラスト
- ②吹屋町並保存会
- ③かもがた町家管理組合
- ④NPO法人鞆まちづくり工房
- ⑤城下町松江の景観と町づくりを考える会
- ⑥こんびら門前町を守る会
- ⑦風の港まちづくりネットワーク
- ⑧協町南町町並保存会
- ⑨内子町八日市護国地区町並保存会
- ⑩地域ねっと研究会UWA
- ⑪NPO法人吉良川町並み保存会

九州・沖縄ブロック

- ①宿場木屋瀬街づくりの会
- ②一般社団法人内野地区活性化推進会議
- ③八女福島町並み保存会
- ④黒木地区町並み保存協議会
- ⑤NPO法人小保・榎津藩境のまち保存会
- ⑥あづち大島たからものの会
- ⑦NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会
- ⑧町並みとまちづくりを考える大分県民の会
- ⑨戸次本町街づくり推進協議会
- ⑩一般社団法人臼杵のんき屋
- ⑪油津堀川運河を考える会
- ⑫美々津の歴史的町並みを守る会
- ⑬竹富島まちなみ保存調整委員会

海外

- ①社団法人台湾歴史資源經理學會



北海道・東北ブロック

小樽・朝里のまちづくりの会

設立年 1999年5月
 会員数 100名
 代表者 永井邦雄（代表）
 連絡先 〒047-0152 小樽市新光4-1-16 北海道新聞中販売所気付
 電話 0134-51-2121
 Mail: info@asari.cc
 URL: http://www.asaricc

「小樽・朝里のまちづくりの会」は今年創立20周年を迎えました。

私たちが活動する朝里地区は古くはアイヌの皆さんが暮らし、近代にはニシン漁で栄えた地域ではありますが、残念ながら歴史的町並み等は残っていません。そのような地で当会はこの地域の特色である豊かな自然を生かしたまちづくりを進めています。

例えば、植樹樹の花植え活動や朝里川遊歩道桜並木づくり事業、花火大会、親子マラソン、雪まつりなど様々な活動を、朝里川遊歩道と道道1号線沿いを中心にした景観作りと各種イベントを季節ごとに行っています。

1999年の設立当初より会則等に縛られない自由さを信条とした市民運動グループとしてスタートしたこともあり、歴史調査をする「朝里遺産部会」、花植活動をする「花部会」、各種イベントを企画運営する「イベント部会」



2月「朝里十字街雪まつり」
 毎年2日間、地域の子どもたちのため、雪中宝探し、玉入れ、クイズ大会などが開かれます。



等、会員は自由に部を選んでその活動に参加しており、現在会員数およそ100名になります。また、地域町内会、高齢者団体、各事業所や小中学校、高校等との協力連携が活動の推進力となり、次世代への継承となっている点は大きな意義があると考えています。

20年間の活動を通し、この地域に住む人たちが自分のまちは自然豊かで楽しいイベントもあり、子どもたちの元気な声が聞こえる住みよいまちだという希望と誇りを持って生活できているとすれば幸いです。

このような活動がまちの景観づくりに寄与していることが認められ、今年度「小樽市都市景観賞」を受賞しました。

また、今年は特に小樽市中心部に残る近代銀行建物群の保存運動に取り組むこととしましたが、本年度の「全国町並み保存連盟総会」を当市で開催いただいたのを機に神戸芸術工科大学教授の西村幸夫氏、福岡県八女市の北島力氏をはじめ会員の皆様のご協力のもと旧三井銀行小樽支店を会場に「小樽100年プロジェクト・セミナー」を開催、これを機に市も大きく保存活用にかじを切る端緒となりました。これもひとえに全国町並み保存連盟の皆様の後押しの賜物とこの場を借りて感謝申し上げます。

函館の歴史的風土を守る会

設立年 1978年4月
 会員数 65名
 代表者 佐々木馨（会長）
 所在地 〒040-0001 北海道函館市五稜郭町43-9 五稜郭タワー（株）内（担当：野寺）
 電話 0138-51-4785

- ・第41回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティ
- ・第36回歴風文化賞贈呈式
- ・第16回小・中・高校生による「ふるさと写真コンクール」
- ・開港50都市景観まちづくり会議 横浜大会に参加



特定非営利活動法人 盛岡まち並み塾

設立年 2003年12月
 法人化 2017年6月6日
 会員数 36名
 代表者 海野伸（理事長）
 所在地 〒020-0827 盛岡市鉾屋町3-15 大慈清水御休み処
 電話 019-656-1603
 Mail: machiya@theia.ocn.ne.jp
 URL: http://machijuku.org/

「盛岡まち並み塾」は、歴史的まち並みや建築物等の保存・活用を図るとともに、地域に残る暮らしや文化を次世代に継承することを目的としている。

活動内容は、改修した盛岡町家を借上げ、地域交流・観光拠点として「大慈清水御休み処」の運営を行いながら、定例で伝統芸能及び歳時記の継承を図る企画として「盛岡町家旧暦の雛祭り」



床塗りワークショップ



町家お掃除プロジェクト

や「盛岡のお盆・黒川さん踊りの門付」等を地域住民と協働で行っている。

昨年は、景観形成整備事業としての「朝顔プロジェクト」に加え、次世代への継承を目的に親子参加型「町家改修体験 床ぬりワークショップ」、地域住人と大学との共同により「町家お掃除プロジェクト」を実施し、多くの人の参加を得て活動の範囲が拡大した。

また、盛岡市歴史的街並み保存活用推進を目的とした勉強会を盛岡市、地域住人との協働で開催している。

さらに、鉾屋町に隣接して北上川の歴史的な川港である新山河岸（しんざんがし）跡があることを背景に、観光推進を目的とし北上川舟運を復活する活動を他団体との連携で実施している。

会津復古会

設立年 1971年9月
会員数 13名
代表者 山田悦史（肝煎）
所在地 〒965-0873 福島県会津若松市追手町4-18 会津葵気付
電話 0242-26-5555
Mail: qzc11065@nifty.com

会津復古會は「真、善、美」あくまで本物の美を追究する。したがって建造物について「木と土と漆喰白壁と石と煉瓦」までを重視し「江戸、明治、大正、昭和初期」までの店舗づくりをする。古い農家、民家が壊される際には、これらを取得して素材を店づくりに生かす。それが復古會方式である。近代的なものの例えば、新建材ボードなど壁面などの内装材、蛍光灯などの照明機材を取り払い、美しく絵になるカメラの被写体となるように徹底復元したのである。これは「ならぬものはなりませぬ」頑固一徹な会津っぼの素朴な演出でした。本物徹底こそ感動を伝達する地方文化なのだと私どもは考え



鈴木屋利兵衛商店

た。古い味のある素材の再利用、リバイバル、リサイクルのこれこそ基本である。旅は未知との遭遇で、他所にはないものが宝なのである。

復元、修景された名門老舗「鈴木屋利兵衛、竹藤、會津葵、えびや、田季野」の5店舗がこの一之町界隈にあり、一之町は會津復古會誕生の地であり、400年前天正年間会津に移封されて自由売り買い市として、町方に開放された。「楽市楽座」発生の地、これが会津商人の出発点でありました。

會津復古會は古きよきものを守り、その心をこれからも伝えていきたい。また、風俗、習慣、年中行事、芸能伝統産業、民芸品、食味など生活文化の掘り起こし、奉仕の精神に基づき、行政からの補助金に頼ることなく、ボランティア活動のさきがけとなる運動を展開している。

大内宿保存会

設立年 1981年4月
会員数 48名
代表者 阿部雄之助（会長）
連絡先 〒969-5207 福島県南会津郡下郷町大字大内字山本45番地

蔵の会

設立年 1995年8月31日
会員数 75名
代表者 上野利八（会長）
連絡先 福島県喜多方市字寺町4761番地（大和川酒造店北方風土館内）
電話 0241-22-2233
FAX 0241-22-2223

関東ブロック

認定NPO法人 共楽館を考える集い

設立年 1993年2月
会員数 258名
代表者 佐藤裕子（代表理事）
所持地 〒317-0056 茨城県日立市白銀町2-22-28
TEL 0294-21-4884
FAX 0294-21-4883
Mail: kyorakukan@net1.jway.ne.jp
URL: https://www.kyorakukan-tsudoi.com/

本“集い”は日立市文化財並びに国の登録有形文化財に指定されている「共楽館」（もと日立鉱山の福利厚生施設）の復原・保存活用を目指して活動しています。

「共楽館」は明治末期～大正初期の歌舞伎座をモデルに、大正6年（1917）2月に完成した芝居小屋でしたが、昭和42年に日立鉱山から日立市に寄贈され、館内は武道館に改築され、現在に至っています。

共楽館がこれからも郷土の宝・市民文化の拠点として親しまれ、誇れる館になるように、「共楽館らしい」事業展開を目指そうと現在「共楽館文化事業支援プロジェクト」を推進しています。昨年は「共楽館シネマ」のシリーズ化を図り、懐かしの映画上映会を4月と10月に開催しました。共楽館は実に多様な利用がされていました。戦後から昭和30年代の映画全盛時代には、共楽館も映画館としても賑わった時代がありました。また「産業遺産と伝統文化で繋ぐふるさと文化の再発見」をテーマに「共楽館ふるさと塾」（5回シリーズ）を開講し近隣住民からも好評でした。

令和2年度には、次世代を担う子どもを中心とした近隣の伝統芸能団体と交流をもち、郷土日立の新たな文化創生の気運高揚に繋げる事業展開を推進



未来へつなぐ郷土の芸能 in 共楽館

します。日立さくらまつり期間中の4月12日(日)には、ふるさとの芸能を楽しむ「未来へつなぐ郷土の芸能 in 共楽館」を開催します。

NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会

設立年 平成14年
会員数 54名
代表者 前田享史
所在地 茨城県龍ヶ崎市若柴町878-5
電話 080-6637-1950
Mail: nfo@maeda.main.jp
URL: https://tatemono-hozon.net/

竹内農場西洋館の保存推進の一環として、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成事業「竹内明太郎が残したもの～龍ヶ崎の赤レンガ西洋館(仮称)」の冊子制作に取り組んでいます。2020年3月以降市内ほか近隣の公共施設や書店、関係団体に無料配布の予定です。

竹内農場西洋館は龍ヶ崎の風光明媚な蛇沼の近くに所在し、コマツ(小松製作所)や日産の前身ダットサンの創業者である竹内明太郎の別荘として建てられた赤レンガ西洋館です。

多くの方が冊子に触れ、文化財として、あるいは史跡としての素晴らしさを認識していただければ、保存推進の大きな役割となるはずです。

一方、中心市街地には江戸時代中期の俳人で松尾芭蕉の流を汲む杉野翠兄の俳句の道場「筑波庵」がかろうじて現存しています。建物の構造は木造平屋、藁葺屋根(現状はトタン葺き)和



竹内農場西洋館
コマツ創業者、竹内明太郎の別荘



筑波庵
江戸中期の杉野翠兄の俳句道場

室3間の他増築部分に台所と風呂場があり、いたって質素な造りです。質素な中にも、翠兄時代のものと思われる、床の間の落とし掛け、長押しの離止め部分や釘隠し、杉材による一枚板など格調高い意匠となっています。

この筑波庵を現存する貴重な江戸中期の道場と位置づけ、整備保存のため募金活動ほか助成金、クラウドファンディングなどあらゆる角度から資金調達を検討しております。

ディスカバーまかべ

設立年 1993年
会員数 23名
代表者 吾妻周一(会長)
所在地 〒300-4417 茨城県桜川市真壁町飯塚909-2
電話 0296-54-1038
FAX 0296-55-2061
Mail: xm@p-cafe.net
URL: https://ja-jp.facebook.com/DiscoverMakabe

「ディスカバーまかべ」は、平成5年より、歴史ある真壁の街並みのすばらしさにいち早く着目し、その歴史的景観を町の内外の方々に再発見(ディスカバー)していただき、そして愛着を持っていただき、しいては真壁のまちづくりにとって、現在まで活動している。

茨城県桜川市真壁町地区は、筑波・足尾・加波山を背景にした、古い歴史と文化を持った町である。そこには由緒ある史跡や寺院、建造物を有し、温かみのある落ち着いたたたずまいを感じさせ、特に旧市街地は、古い見世蔵や土蔵や門、明治～昭和中期の懐かしい建造物があちこちに見られる。この素晴らしい街並みを整備し、そして、



まかべ町なか書き初め展
小中学校の児童生徒の書き初め約200点を、歴史的建造物の店舗20軒、や行燈28件に展示する事により、子供たちや家族が歴史的町並みを回遊する

賑わいを取り戻し、私たちの子や孫たちに残していくために平成5年、「ディスカバーまかべ」を発足した。

これまで、フォトコンテスト、歴史的建造物調査や活用、かわら版やイラストマップの発行、町並み案内看板の設置、登録文化財制度の行政への提言、シンポジウムの開催、小中学生対象の真壁の歴史講座、また、小、中学生の描いた絵画や、書初めを町なかの歴史的建造物に展示する『まかべ町なか美術館、書き初め展』も約10年続けてきた。一昨年は全国重伝建協大会を真壁の地で行い、現地視察、分科会等で主導してきた。

また、昨年は設立25周年の年であり、周年事業を行った。その事業の一環として、イラストマップを18年ぶりに作成した。このマップは会員による手作りのものであり、住民や、来訪者に変な好評であり、町並み保存に有益なものであると確信している。

栃木蔵街暖簾会

設立年 1985年10月
会員数 4名
代表者 小池文平
連絡先 〒328-0037 栃木県栃木市倭町10-2 殿塚方
電話 0282-24-2161
FAX 0282-22-0755
Mail: osamu242161@gmail.com

NPO法人

本一・本二まちづくりの会

設立年 2009年3月12日
代表者 森壽作(理事長)
連絡先 〒376-0031 群馬県桐生市本町1-3-10

NPO法人川越蔵の会

設立年 1983年5月11日
法人化 2002年12月12日
会員数 223名(2019年7月現在)
代表者 落合 康信
所在地 〒350-0062 埼玉県川越市元町1-12-2
電話 049-222-2330
Mail: jimukyoku@kuranokai.org
URL: https://www.kuranokai.org

当会は現在、2020年1月31日、2月1日に開催される『第42回全国町並みゼミ川越大会』の事務局として準備作業に精一杯取り組んでいます。全国町並みゼミが川越で開催されるのは



全国町並みゼミ川越大会の第一回実行委員会の様子

2 回目です。26 年前の平成 5 年のことで、一番街（蔵造りの町並みのあるエリア）の電線が地中化された直後でした。当時は、伝統的建造物群保存地区指定に向けて、まちと行政が少しばかり険悪な状態となっていた中、行政をはじめ、まちに関わる様々な団体や市民が一丸となり、歴史を活かしたまちづくりへ向けて新たなスタートを切る契機となった大会でした。

現在は町並み整備が進み、川越には多くの観光客の皆さまがいらっしゃるようになりましたが、多様な価値観の中で、川越らしさが希薄になってきていると感じている地元の方も多く、今だからこそ将来へ向けたかじ取りが必要だと感じています。

今回の大会ではテーマを『歴史都市のこれから ～過去に学び、今を見つめ、未来を想い、共に歩む～』として、前回大会からの四半世紀の歴史を振り返り、住民や行政、来訪者など地域全体でより良い関係を築きながら次代へ継承できる歴史都市のあり方を探っていきたいと考えています。

NPO 法人 小野川と佐原の町並みを考える会

設立年 1991 年 1 月
法人化 2004 年 8 月
会員数 正会員 67 名、賛助会員 14 名
代表者 佐藤健太良（理事長）
連絡先 〒 287-0003 香取市佐原イ
1903 佐原町並み交流館内
電 話 0478-52-1000
fax 0478-54-7766
Mail: sawara_machi@yahoo.co.jp
URL: <http://www.sawara-machinami.org>

2020 年オリンピックイヤー、当地の聖火リレーは小野川に舟を使ったコースが決定した。また、オリパラ期間中、小野川にプロジェクトマッピングなどの企画が行われるそうです。



佐原三菱館修復工事・香取街道電線地中化は工事が進んでおり地域の期待も高まり今後の楽しみとなっております。

台風 15 号 19 号では、瓦やトタン板の飛ばされた被害や雨漏りの報告があり、千葉県有形文化財では「油惣」の店舗が瓦・樋の被害と格子に損傷がありました。利根川の増水から避難命令も出されましたが決壊は免れ大事には至らなかったです。

令和元年 6 月には「都市計画法・建築基準法制定百周年」を記念して国土交通大臣より感謝状を頂戴いたしました。会の活動としては、次世代の方に保存意識の高揚をどのように引き継ぐべきか苦慮をいたしております。「昔かたりの会」など開催し少なくなった次世代の方に呼びかけを行います。

NPO 法人 たいとう歴史都市研究会

設立年 2001 年
法人化 2003 年
会員数 正会員 54 名、賛助会員 59 名
友の会 42 名
代表者 椎原晶子（理事長）
所在地 東京都台東区上野桜木 1-11-8
カヤバアネックス（事務局）
FAX 03-5834-8044

*常駐スタッフがおりません。できれば HP のお問合せフォームか E-mail でご連絡ください。
*事務局携帯 090-6170-4099（イベント当日用）
Mail: info@taireki.com
URL: <http://www.taireki.com>

〇活動目的

東京の古くからの町・台東区周辺、なかでも江戸時代以来の寺町を引き継ぐ、谷中・上野桜木界隈の歴史的たてもの、道、路地、井戸、稲荷、町並み、自然と地域の暮らしや文化活動、地域の特性ある生活流儀など、有形無形の生活文化の保全活用を支援し、潤いある都市生活の継続と発展をめざしてい

ます。

〇活動内容

①調査研究、②保全活用相談、③伝統的建造物の維持管理及び活用運営、④ワークショップ、いいところ探し、勉強会、谷中・上野のお山探訪、寺子屋プロジェクト等の活動を行っています。

2010 年度は日本ユネスコ協会の未来遺産プロジェクトに登録されました。文化庁や台東区、地域団体との協力、連携により伝統的生活文化の総合的な活性化に取り組んでいます。

〇伝統的建造物の維持管理および活用運営事業

現在 5 件の建物の維持管理・活用運営を行っています。①明治 40 年築の屋敷、日本橋の布問屋市田善兵衛氏が建てた「市田邸」（国登録有形文化財）では若い世代が住み日常の維持管理をし、1 階座敷と蔵を文化的活動の拠点として活用しています。②大正町家の「間間間」は 2 階に住人が住み、1 階のみせ部分をカフェとしています。③「カヤバ珈琲店」は、大正期の町家で、当会が借り受け、2009 年に珈琲店を再開しました。名前や外観を変えず、オリジナルの家具やメニューを生かしつつ若い世代が経営をしています。④「旧平櫛田中邸」は、大正期の彫刻家アトリエと住居で、一般社団法人「谷中のおかって」と一緒に「田中邸が再び創造と交流の場」になることを目指して建物の維持管理と活用運営をしています。

近年では、昭和 13 年築の三軒家を再生活用する企画を提案し、2015 年に建物オーナーにより、店舗、住居、事務所、コミュニティスペースのろじ・ざしきを含む複合施設「上野桜木あたり」としてオープンしました。NPO ではその管理運営委託を受けて施設とまちの人々を繋いでいます。このとりくみは、2015 年にグッドデザイン賞を受賞しました。

2016 年末より、大正築の元銅壺屋「銅菊」の町家について、当会が再生相談・建物調査を行い、株式会社まちあかり舎につないで同社が耐震補強・再生事業を行い、2018 年 3 月、大丸松坂屋百貨店が入って「未来定番研究所」として再出発しました。

2018年には国土交通省のマネジメント型リノベーションファンドのひとつとして民都機構と朝日信用金庫による「谷根千まちづくりファンド」が設立され、当会と上述の株式会社まちあかり舎をエリアマネジメント団体として、地域の古民家再生事業を推進するしくみづくりと実践に取り組んでいます。

○谷中まちづくりへの参加と地域の歴史文化の体験講座

谷中地区では、東京都と台東区による都市計画道路の廃止と地区計画の策定手続きが進んでいます。谷中地区が江戸時代以来の寺町の歴史文化と防災を両立するまちづくりを地域の人たちと台東区・東京都が協力して進めていけるよう、当会のメンバーもまちづくり協議会等に参加して調査や提案を行っています。

長年続けている「上野のお山探訪」講座では、お正月には嶋根隆一さんによる「切絵図で巡る七福神めぐり」を実施。2019年は上野の寛永寺の歴史由来を寛永寺長藤・浦井正明先生に伺い、向ヶ岡の大名庭園の景観を原祐一先生に実地案内・講義をしていただきました。「寺子屋プロジェクト」では冬の市田邸で「こども茶道体験教室」を行いました。

以上の一連の活動に対して2019年「第三回台東区景観まちづくり賞・活

動部門」を受賞しました。これからも、歴史的建物を活かして、まちと建物、人のつながりを次世代につなぐ建築・住文化の再生、まちづくり参加を行っています。



明治の屋敷「市田邸」での文化活動例「女流義太夫」公演



昭和13年築の三軒家を店舗、住居、コミュニティスペースの複合施設としてまちにひらく「上野桜木あたり」



地域の声に応じて復活したカヤバ珈琲店



旧平櫛田中邸をアートの創作、体験、発表、交流の場とする。

北陸・甲信越ブロック

新潟まち遺産の会

設立年 2004年6月
 会員数 約120名
 代表者 大倉宏
 所在地 951-8066 新潟県新潟市中央区東堀前通1-353
 伊藤純一アトリエ内
 電話 025-228-2536
 Fax 025-228-2537
 Mail: chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
 URL: http://machi-isan.sakura.ne.jp/

長岡藩の外港として、1655年に現在地に建設された本州日本海側最大の湊町新潟は、戦災も免れ、多数の歴史的建造物が残っています。幕末の開港5港のひとつでもあり、明治初期の擬洋風建築として有名な旧税関や旧県議会議事堂、そして昭和初期のRC橋である萬代橋などは重要文化財に指定されています。市中心部の旧新潟町エリアには、3つの主要な歴史的界隈があります。

第一は、近世からの雰囲気が残る【下町（しもまち）】で多くの町屋が残ります。中で市指定文化財旧小澤家住宅「北前船の時代館」は、貴重な回船問屋の遺構であり、また表が平入り、裏が妻入りの独特の形態を持つ新潟町屋の典型でもあります。

第二は明治にお屋敷街として開発され、洋風建築が多く残る【西大畑】。こちらには豪商の別邸「旧齋藤家別邸」があり、庭園は国指定名勝です。

第三は、伝統的料亭建築等が数多く残り、かつ全国有数の現役花街である【古町】です。国登録文化財の鍋茶屋は木造三階建て、全国最大規模の200畳の大広間を備えています。

又今年度から「歴史まちづくり法」を活用し新潟市の「歴史まちづくり」を推進していくため関係他団体と連携



古町花街の代表的な料亭建築「鍋茶屋」

し協議を進める活動もはじめました。この様に歴史的建造物や町並みを発掘・保全に取り組んでいます。

越後村上・城下町まちなみの会＋むらかみ町屋再生プロジェクト

設立年 1988年10月
会員数 15名
代表者 吉川真嗣（町屋再生PJ）
所在地 〒958-0837 新潟県村上市大町1-20
電話 0254-53-2213（吉川真嗣）
Mail: shin_kikkawa@ybb.ne.jp

城下町の村上で平成9年、道路拡幅を含む大規模な近代化計画が旧町人町である商店街に持ち上がり、なんとこれに96%の商店街の住人が賛同した。この時、近代化に警鐘を鳴らしてくれたのが当時まちなみ保存連盟会長の故五十嵐大祐氏である。「近代化を食い止めなさい。取り返しのつかないことになる。」この五十嵐氏の言葉が我々を突き動かした。

早速、町屋の生活空間を公開する取り組みを16軒の町屋で展開。次に「黒塀一枚千円運動」で小路のブロック塀を黒塀に作り変える運動を開始し、更には市民基金で町屋の外観を昔の姿に再生する町屋再生事業を行った。

これらの取り組みにより全国的にも注目され、21年たった現在、観光客がゼロだった町に年間30万人も訪れるようになった。黒塀は460mに達し、



外観を再生した町家



黒塀通りの賑わい

再生された町屋は47軒、町は驚くような変化を遂げた。

真っ向から反対するのではなく、町屋を活かし、町を活性化させ、村上的あるべき姿を市民自ら形にして示すという私共の取り組みは、町を活性化させながら、町の景観を着実に変え、これが時間をかけながら市民の意識を変えていった。その結果18年後の平成28年、都市計画道路は廃止され、市は歴史まちづくり法の導入を決定。しかも驚くことに、近代化を強く主張し続けてきた商店街の住人が、歴史の町づくりに100%合意するという奇跡のようなことが起こった。正に村上にとって歴史的なでき事である。

紆余曲折を経ながらもここまで来れたのは、亡き五十嵐会長はじめ、西村幸夫先生、荻谷勇雅先生、岡崎篤行先生、殿塚治理事、北島力理事ら連盟の大きなお力添えがあつてのことです。心より感謝申し上げます。

NPO法人 歴町センター大聖寺

設立年 2001年10月
会員数 12名
代表者 毛利修、事務局長：瀬戸達
住所 〒922-0811 石川県加賀市大聖寺南町ニ-2-2
電話 0761-73-0220
携帯 090-1635-4605
Mail: daishoji@po5.nsk.ne.jp
URL: <http://rekimachi.jp/index.html>

歴町センター大聖寺では、旧大聖寺藩内に残る歴史的景観を守り整備することにより地域の活性化を図り子ども達が誇りを持てる「ふるさとづくり」を目的としております。

過去には「一里塚の復元」「楽しく歩こう歴史街道イベント開催」「景観整備拠点となる時習庵（国登録有形文化財）整備」「歴史的通り名称の看板設置」「観光ボランティア養成講座実施」「史跡・産業・文化・観光用掲示板『ふるりの宝発見』設置」「時鐘堂再建」「西村幸夫町並み塾開催」「第27回全国町並みゼミ大聖寺大会開催」「歴町センタービル開設」「五徳庵（国登録有形文化財）整備」「大聖寺川下り屋形舟遊覧」「旧北陸鉄道加南線運行の電車を屋形舟待合所として設置」「『ええもん市』を屋形船待合所前に設置」「大



長屋門完成合成写真の前で記念撮影

聖寺町並み景観広場を整備し方丈や記念碑を設置』『もてなしトイレ案内処』設置」「加賀市文化財レスキュー隊結成」「第1回北信越町並みゼミ大聖寺大会開催」「STEP21リーディング事業指定『文化合宿』実施」「大聖寺藩所復元整備」「大聖寺観光案内所開設」「加賀大聖寺人物講座開講」「大聖寺藩足軽屋敷旧月田邸・早水家整備」「NHK初代会長岩原謙三記念お御堂開設」「赤瓦の里セミナー・ふるさとのステキ再発見講座開催」「駅まで何分案内看板設置」「加州松島社跡石碑建立」「大聖寺川河畔にイロハモミジ・ドウダンツツジ植樹」「大聖寺活性化サロン（若手起業家支援センター）オープン」「若手起業家紹介看板設置」「大聖寺城・藩邸・関所等のジオラマ制作」「日本プロ野球創始者である河野安通志生誕地顕彰看板建立」「『日本百名山』の深田久弥生誕地顕彰看板建立」「（特）歴町センター大聖寺記念館・八間道能楽堂建立」の他、毎年新たな取り組みを行っております。

今後は「防災避難所の整備」や「日本一大聖寺藩邸長屋門の復元整備」目標に活動を進めていき「小さな城下町大聖寺」の魅力を十分に味わってもらおうと活動を進めております。

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

設立年 1995年（平成7年）
会員数 249名（熊川区民全員）
委員 65名
代表者 宮本哲男（会長）
所在地 〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川30-4-2 宿場館
TEL/FAX 0770-62-0330（宿場館）
URL: <http://kumagawa-juku.com>

○河内川ダム竣工と周辺環境整備

2019年6月、計画発表から37年の時を越えて、県営河内川ダムが竣工しました。洪水の回避はもとより治水

の安定が図られるとともに、見学者が増え始め、今後ダム周辺の環境整備が進めば、熊川宿とあわせて交流人口増が期待されます。

河内川ダムから若狭駒ヶ岳へ、さらには熊川城跡や沼田氏出城跡へのトレイルルートの開発を目指します。

○熊川城跡への山道整備

熊川城は、城主沼田氏から細川家へ続くルーツとなり、また2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀のゆかりの地でもあります。

現在、城郭や張出郭の原形は留めているものの、雑木や杉が大きくなり、城跡への山道も急傾斜で荒れ、往来が困難な状態になっていました。

この度、熊川宿とその周辺環境改善の一環で、熊川城跡を中心とした山道の復元・整備を行い、熊川宿の歴史的価値を高めます。

○民間活力による古民家活用の取り組み

熊川宿では古民家活用が進んでいます。2018年に、食事処や焼き鯖店、喫茶店、陶芸店、そして美術館がオープンしました。

そして、熊川宿中心地の本店「菱屋」には、2018年4月に（株）デキタによる「街道シェアオフィス」がオープンし、2019年10月には一棟貸し宿泊施設「八百熊川」とコーヒーショップ「SOL'S COFFEE」がオープンしました。さらに今年に入って古民家を活用した忍者道場も開設されました。

このような民間活力による伝建物の

有効活用が進められたことは、社会的にも大きな影響があり、今後の熊川宿の空き家活用の牽引役を果たすものと考えられます。交流人口の増加と、新たな雇用や賑わいの創出が熊川宿の活性化に繋がってほしいものです。

○町並み通信第40号・創刊20周年

熊川宿まちづくりの広報誌『町並み通信 鯖街道熊川宿』は、平成12年6月の創刊以来、2020年2月発行の第40号、さらに6月には創刊20周年を迎えます。

第40号では、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映されることもあり、主人公の明智光秀をはじめとする熊川ゆかりの人物や熊川城跡について特集する予定です。

また創刊20周年記念となる第41号（令和2年8月発行予定）では、別冊『熊川宿の空き家活用ガイド』の発行を計画しています。

公益財団法人妻籠を愛する会

設立年 1968年9月
会員数 230戸
代表者 藤原義則（理事長）
所在地 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻 2159-2
TEL/FAX 0264-57-3513
Mail: umakai@ju.kiso.ne.jp

妻籠宿の保存事業開始から52年が経過しました。この間に様々なことに取り組んできました。なかでも「文化文政風俗絵巻之行列」は保存工事起工式が行われた11月23日に第1回目

が行われ、その後一度も滞ることなく続けられ、本年度も52回目の行列を無事終了しました。この日ばかりは江戸時代に思いをはせ、歩く人、実行委員、観光客が一体となって晩秋の一日を楽しみます。

また、冬場の勉強会として昭和52年から始まった「妻籠冬期大学講座」も今年度は44回目を数えます。これも1回も欠けることなく続いています。2月1日に講師を2名お招きし開催する予定です。2月の第1土曜日を基本としているため、今年は全国町並みゼミ川越大会と重なってしまいました。団体で参加できず残念です。

今後も今までと活動の基本方針は変わらず、継続は力なりで取り組んでいきます。



熊川宿から10分、ほぼ完全に遺構が残る熊川城跡



令和元年10月にオープンした古民家宿〈八百熊川〉



街道シェアオフィス「菱屋」にオープンした SOL'S COFFEE LABORATORY 店



古民家を改修し1月にオープンした「忍者道場 熊川道場」



妻籠・文化文政風俗絵巻之行列



妻籠冬期大学講座

NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会

設立年 2001年6月

会員数 180名

代表者 香山篤美（理事長）

連絡先 〒381-1231 長野県長野市松代町
松代（伊勢町）577

TEL/FAX 026-278-1277

Mail: yumekuukan-matushiro@topaz.ocn.
ne.jp

URL: <http://www.geocities.jp/yumekuukanmatushiro/index.html>

1. 国の登録有形文化財への登録推進

NPO 夢空間では平成 16 年から、松代町内の民家など歴史的建造物の保存利活用をはかるために、国の登録有形文化財に登録する取り組みを行い、今年度までに 39 箇所 60 件を登録し、当面 100 件の登録を目指している。町内に点在する登録有形文化財を線で結び、まち歩きコースを設定し、まち歩きマップに落とし込んで「まち歩き観光」の推進をはかり、まちのにぎわいづくりに取り組んでいる。「まち歩きガイド」を養成し毎月 1 回各種コースを紹介する「まち歩きガイドツアー」を開催して町内外からの参加者に松代の町並みのすばらしさを紹介し、松代のファンづくりに取り組んでいる。

2. 空き家空き店舗のリノベーションによる利活用推進

平成 22 年からは町の中心部の金物店だった大正年代の店蔵をお借りして松代への来訪者と地域の人々との交流を促進するために「松代まち歩きセン



まち歩きセンター・視察の受け入れの様子



寺町商家のにぎわい（四季の市）

ター」を開設し、24 年には隣接した角店の旧セブンイレブンを町並みにあわせた改修を行ってまち歩きセンターを拡充した。現在、旧金物店を「伝承館」と名づけ商家に伝わる伝統食や地域の歴史文化を次世代に伝承する場所として活用している。

平成 17 年から保存に取り組んだ旧金箱邸が長野市指定文化財寺町商家として保存再生されたのを受け、平成 27 年度から NPO 夢空間が指定管理者としワンディシェフを中心とした利活用を行い地域住民と観光客との交流拠点として松代の新しい魅力を発信している。また、平成 24 年に廃線になった長野電鉄の屋代線の旧松代駅の木造駅舎の保存と利活用に向けて、松代地区住民自治協議会歴史文化部会の部会員の一人として地元での機運づくりを行い、地元の総意として行政に対して提案を行い旧松代駅舎の保存再生へ道筋が作られるように取り組んでいる。

3. 2019年9月に信州町並みネットワーク発足（ポスト全国町並みゼミ）

2018 年 11 月に長野市松代を主会場に開催された第 41 回全国町並みゼミ長野松代・善光寺大会開催を契機に盛り上がった長野県内における町並みネットワーク結成に向けて長野県行政の協力を得て、2019 年 9 月に県内 22 団体の参加により「信州町並みネットワーク」が発足した。三役には全国町並みゼミ会員の 3 団体が正副会長となり、NPO 夢空間が当面の間、県行政の協力を頂きながら事務局をつとめることとなった。2020 年 10 月には小諸市で全国町並み保存連盟主催の「北陸甲信越ブロック町並みゼミ」の開催を地元小諸の実行委員会と共に信州町並みネットワークが共催する形で準備を進めている。

NPO法人小諸町並み研究会

設立年 1998年6月

法人化 2001年8月

会員数 20名

代表者 佐藤英人（理事長）

所在地 〒384-0014 長野県小諸市荒町
1-5-7 エイワ税理士法人内

電話 090-1200-0239（荻原）

Mail: komorojyuku@gmail.com

URL: <https://machinami.wixsite.com/komoro>

城下町・信州小諸は、小諸城址「懐古園」、北国街道の宿場の町並みなど、歴史資源の豊かなまちです。北国街道小諸宿の本陣、脇本陣、問屋場が残り、明治・大正に商都として栄えた時代の立派な商家が軒を連ねています。

当 NPO は、観光局や地区まちづくり協議会と連携し、歴史的な商家や周辺の空き家を生かして、店、宿、工房 & ギャラリーを増やすプロジェクトに取り組んでいます。

昨年は、建物の価値を再認識していただくよう、小諸の町割りや建物を丁寧に紹介した冊子「高原の城下町・小諸」を発行しました。また、市民有志で保存再生に取り組んできた旧脇本陣条屋を市が取得・再整備し、昨年、宿泊施設としてオープンしました。（こもろ観光局の運営）

今年は、10月10日に、「第14回北陸・甲信越ブロック町並みゼミ 小諸大会」を行います。信州の歴史的まちなみネットワーク大会と同時開催）

また3月8日は、「小諸・佐久 古い建物をいかした地域おこし交流フォーラム ～次世代の担い手が育つまちとは～」を開催いたします。ここでは、小諸周辺で若い世代がオープンした古い建物いかしたカフェや宿を紹介しつつ、どうしたら次世代を呼び込むことができるかを、次世代の方達に語り合っていただきます。

情報はホームページにもアップします。どうぞ、小諸におこし下さい。



小諸城大手門と浅間山



宿泊施設に生まれかわった旧脇本陣条屋

東海ブロック

一般社団法人 恵那市観光協会岩村支部

設立年 1950年4月1日
会員数 107名
代表者 渡曾延彦（わたらいのぶひこ）
連絡先 09-7403 岐阜県恵那市岩村町 263-2 岩村まち並みふれあいの館
TEL/FAX 0573-43-3231
Mail: kankou@iwamura.jp
URL: http://iwamura.jp

岩村城下町の歴史は、1575（天正10）年、織田家譜代の河尻秀隆を城主とし、城下町を城の西方へ移すべく、先ず岩村川の左岸の町人街に東から西へ通ずる道路を中心に、左右それぞれ2本の用水を設置し、その間に家屋を連ねさせた。この用水を“天正疎水”と名付け現在も利用しています。現在の岩村城下町本町通り（旧上町・中町・下町）に面する両側の家並みの基礎はその時に造られたものです。

上町には、主として職人が住み、大工、指物屋、葺き屋、石屋、鍛冶屋、畳屋、蹄鉄師などが軒を連ね、また織物、染物の仕事場もあり、中町、下町には、商いの店が並んでいました。この城下町移転の事業は、江戸時代に入り、松平氏入封後に至って完成しており、400余年の歴史の中に活きてきた岩村城下町は、江戸時代初期から現在に至る各時代の家が軒を連ねて



岩村城下町（本町五丁目）



岩村城下町（本町三丁目）

混在し、江戸・明治時代の遺構が多く、往時の町並み景観を保っているところが随所に残っており、重要伝統的建造物群保存地区にも選定されています。

平成30年には、この城下町の真ん中で昭和の町並みを再現したNHKの朝ドラ「半分、青い。」のロケが行われ、「第9回ロケーションジャパン大賞」のグランプリを受賞しています。

美濃の町並みを愛する会

設立年 1993年
会員数 130名
代表者 鈴木隆（会長）
所在地 〒501-3722 岐阜県美濃市常盤町2277番地 鈴木方
電話 0575-33-0173

一般社団法人飛騨市観光協会

設立年 2007年4月
会員数 489名
代表者 池田孝吉（代表理事）
所在地 〒509-4236 岐阜県飛騨市古川町殿町8-17
電話 0577-74-1192
FAX 0577-73-0099
Mail: info@hida-tourism.com
URL: http://www.hida-tourism.com

飛騨古川は、比較的新しく形成された町並みではありますが、周囲との調和を大切にする「そうば」という精神により統一されたデザインで形成されています。観光協会でも新築や改築をされた建物を対象とする「景観デザイン賞」を設けて市民の景観に対する意識を促し、行政も公共スペースの



瀬戸川

景観整備の実施や市民に対する景観整備助成事業を実施するなど、官民一体となった町づくりの取り組み事例として他団体から注目される町となりました。

現在飛騨市観光協会では、古川町観光協会時代の「景観デザイン賞」事業を継続すると共に、新たに神岡町の町並みにも注目して平成21年度「神岡町歩きガイド」を設立しました。自分たちの地域を歩き、ガイドすることで少しずつ神岡町の地元住民にも地域を見つめ直し、誇りを持つ人たちが増えてきております。また、ガイドを利用して町を歩く観光客も少しずつですが増加しており神岡町の町づくりのきっかけとなれと思っています。

今後は、古川町だけでなく町づくりの活動を飛騨市全体に広げ、それぞれの地域らしさを活かした町づくりをどう展開していくかが課題となります。

白川郷荻町集落の自然環境を守る会

設立年 1971年12月
会員数 140世帯（500人）
代表者 和田正人（会長）
所在地 〒501-5627 岐阜県大野郡白川町荻町997 国重文和田家内
TEL/FAX 05769-6-1058（和田家）
URL: http://shirakawa-go.com/~ogimachi

守る会は合掌集落と農山村の景観保全及び地域振興の促進を目的とし、昭和46年に「白川郷荻町集落の自然環境を守る住民憲章」を制定し取り組みを進めてきました。それが昭和51年の重要伝統的建造物群保存地区の選定、平成7年のユネスコ世界遺産登録につながり、今年（令和2年）は世界遺産登録25年目、重伝建選定44年目を迎えます。

具体的な活動としては、①月1回の定例会（現状変更申請の審議を通して景観の維持と組織の強化）、②各種営業団体との話し合いの促進（景観保全や交通対策等に関する話し合い）、③休耕地の復元や茅場の保全の促進（行政・外部支援者との協働）、④結の継承（合掌保存組合との連携）、⑤学校教育「ふるさと学習」への参画、⑥会報『ねそ』の発行（月1回）やWebページ・SNSによる内外への情報発信



海外の葺き師と共に結の屋根葺き体験



秋の茅刈イベントに集結した参加者

等を行っています。

本年度の大きなイベントとしては、5月に白川村で開催された国際茅葺き会議第6回日本大会に参画。1日目の茅葺き会議や交流会、2日目の「結による屋根葺きワークショップ」を通して、国内外の葺き師の方々との交流を深めました。また、秋の茅刈イベントも4回目をむかえ、村内外の参加者と共に900束の茅を収穫しました。

令和3年には、守る会結成50周年を迎えます。先人、今を生きる住民、行政、有識者、白川郷を応援くださる多くの支援者に感謝し、半世紀に及ぶ取り組みを次代へとつなぐための確かな歩みを進めたいと考えています。

有松まちづくりの会

設立年 1973年2月18日
 会員数 235名
 会長 竹田嘉兵衛
 連絡先 458-0924 名古屋市緑区有松3012
 有松商工会内
 電話 052-621-0178
 FAX 052-622-7401
 Mail: info@arimatsu.or.jp

有松まち普請の会

設立年 2005年6月7日
 会員数 個人会員50名、賛助会員10名
 代表者 近藤鋭治（会長）
 連絡先 〒458-0824 名古屋市緑区鳴海町
 有松裏200（株）イーストヒル内
 電話 052-625-6555

NPO法人犬山城下町を守る会

設立年 1984年11月
 会員数 115名（正71・特別25・賛助13）
 代表者 長谷川良夫（理事長）
 連絡先 84-0083 愛知県犬山市東古券399-3
 TEL/FAX 0568-61-8608
 Mail: yosi@kfx.biglobe.ne.jp

○小島家住宅について

小島家住宅は平成17年、主屋・座敷・蔵、仕込場5棟・寄付・塀の9棟が登録文化財として、登録され、主屋は明治30年、座敷は弘化4年、蔵仕込場5棟と寄付は江戸末、屋根塀は明治とされていたが、特別公開中の調査と平成26~36年の保存修理工事中の調査により、令和元年12月7日「新版 小島家住宅の史的考察」—朝鮮伝来の苧蓼酒醸造元—と題して45ページの冊子に纏めた。

座敷棟は天正初年建築、仕込蔵、酒蔵は慶長二年建築、当初は、桧皮又は、柿板葺屋根、庭園等を含めて、作事は、古田織部であると、推定される貴重な建築群で、破損状況から消滅の危機にあることが判明した。これだけの歴史ある建造物を失うことは、国家的損失である。現在犬山市、愛知県教育委員会文化財保護室を通じて、文化庁建造物担当に実査の要請をしている。

足助観光協会

設立年 1947年
 会員数 165名
 代表者 田口敏男（会長）
 所在地 〒444-2424 愛知県豊田市足助町宮平34-1
 電話 0565-62-1272
 FAX 0565-62-0424
 Mail: kankou@asuke.info
 URL: http://asuke.info

NPO法人伊勢河崎まちづくり衆

設立年 1999年
 会員数 65名
 代表者 高橋徹（理事長）
 所在地 〒516-0009 三重県伊勢市河崎2-25-2
 電話 0596-22-4810
 Mail: info@isekawasaki.jp
 URL: http://www.isekawasaki.jp

NPO法人伊勢河崎まちづくり衆が運営管理する伊勢河崎商人館（登録有形文化財）は平成14月に開館し、今年で18年目を迎えています。

伊勢河崎商人館は600坪の敷地に母屋と7つの蔵がある江戸時代創業の酒問屋で、現在では河崎の歴史や文化を展示した見学施設として公開し、河崎のまちづくりの拠点施設として機能しています。毎月第4日曜日に開催される「伊勢のだいどこ市」は、近所の方や河崎の方々が月に一度買い物や交流を通じて暮らしを楽しめるコミュニケーションの場ともなっています。

10月には江戸時代からある通りを使い「河崎商人市」が開催されました。通りの蔵や町家に沿って飲食や物品の販売が行われ、勢田川沿いでは一箱古本市もあり大いに賑わいました。

一番のニュースは、国土交通大臣表彰として「手づくり郷土賞（大賞部門）」を受賞したことです。受賞内容は「伊勢河崎・町並みと川を生かしたまちづくり～伊勢河崎商人館を核とした暮らしのデザイン～」として河崎での活動を評価していただきました。



伊勢のだいどこ市

NPO法人二見浦・賓日館の会

設立年 2003年7月1日
会員数 35人・2団体
代表者 奥野雅則(会長)
連絡先 519-0609 三重県伊勢市二見町茶屋
566-2
TEL/FAX 0596-43-2003
Mail: hinjitsu@amigo2.ne.jp
URL: https://hinjitsukan.com/

賓日館は明治20年、伊勢神宮に参拝する英照皇太后を迎えるため神宮の崇敬団体・神苑会によって建設され、その後も歴代諸皇族をはじめ、多くの賓客の休憩・宿泊施設として利用されました。当時一流の建築家による洗練されたデザインや選り抜かれた材、職人の技などを、建物、庭園共に伝統建築の粋を目の当たりにすることができます。平成22年に国の重要文化財に指定され、神宮文化の一端を担う賓日館は、歴史的・文化的・建築的に大変価値ある建物です。

平成15年に二見町(現伊勢市)に寄贈され、以降NPO法人二見浦・賓日館の会が管理運営を行っています。

私たちは賓日館の積極的な活用を行うことで、二見浦旅館街の活性化に向けたまちづくり活動を推進し、豊かな地域文化交流を広げていくための拠点施設となるよう、様々な取組みを行っています。中でも婚礼、成人式、七五三などのロケーション撮影の場提

供は大変人気であったり、そのほかにも賓日館ならではの空間を生かした講演会や勉強会、演奏会などの要望も多かったりと、私たちが思う以上に活用の可能性がどんどん広がっています。

また「賓日館+ (プラス) プロジェクト」を立ち上げ、賓日館での様々な体験を通して、地域の人や子どもたちに馴染みある場所、思い出の場所としてこの先も大切に残していきたいと思ってもらえるよう、心に種をまく保存活動に力を入れています。

あいの会「松坂」

設立年 1981年4月
会員数 18名
代表者 中西士典
連絡先 〒515-0073 三重県松阪市殿町
1317-6
TEL/FAX 0598-21-5995
Mail: koto@kvd.biglobe.ne.jp

あいの会「松坂」は、郷土の文化遺産の掘り起しと活用による地域振興を目的として、40年近く前に設立され、町並み関係では、第10回全国町並みゼミを松阪市で開催する等、町並みを活かしたまちづくりに積極的な活動を行ってきました。

あれから30年以上が経過し、会員の高齢化が目立ってきましたが、最近では市内に若い方のいろんなまちづくりの会が発足し、あちらこちらで積極

的な活動が行われるようになり、松阪の町並み整備も徐々に進められてきました。

昨年12月1日(日)、全国町並み保存連盟の理事会が松阪市で開催され、松阪市都市計画課から松阪市の景観の取り組みを説明して頂き、松阪市観光協会、松阪歴史文化舎のご協力を得て、重要文化財の御城番屋敷、重要文化財の旧長谷川治郎兵衛家、小津清左衛門家等の豪商の館を見学して頂き、あいの会メンバーと懇談の席を持って頂きました。町並みゼミでの提言が今日の松阪の町並み整備に活かされているとお話もありました。

松阪と言いますと、「松阪肉」で知られていますが、歴史と文化と豪商のロマンあふれるまちです。名古屋から約1時間、大阪難波から約1時間半、京都から約2時間で来て頂けます。ぜひ皆様のお越しをお待ちいたしております。

NPO東海道関宿

設立年 1980年2月
会員数 50名
代表者 清水孝哉(理事長)
連絡先 〒519-1112 三重県亀山市関町中
町387(深川屋)
電話 0595-96-0008



賓日館に「いそな妖怪展」道具+妖怪の展示で、建物や物を大切に扱うことを子どもたちに伝えました。



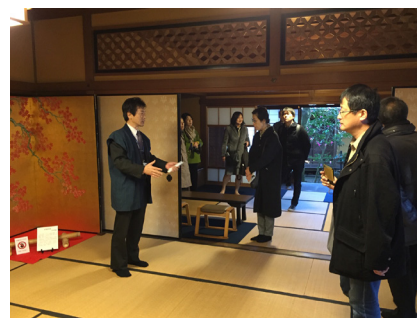
おひなさまめぐり in 二見」では毎年館内に約1,000体のお雛様を並べます。



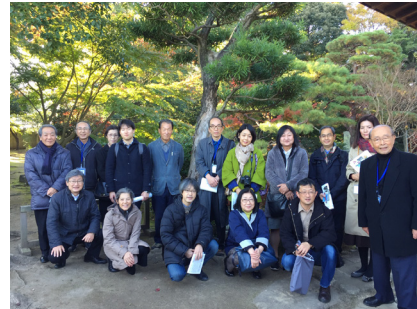
重要文化財 御城番屋敷



重要文化財旧長谷川治郎兵衛家の庭園で全国町並み保存連盟の理事の皆様と



重要文化財 旧長谷川治郎兵衛家



重要文化財 旧長谷川治郎兵衛家

関西ブロック

京都東山観光散策道路を守る会

設立年 1973年6月
連絡先 〒605-0862 京都市東山区清水2-221 福島方:

NPO法人京町家再生研究会

設立年 1992年7月
会員数 50名
代表者 小島富佐江(理事長)
所在地 京都市中京区新町通錦小路上る百足屋町384
電話 075-221-3340
Mail: saisei@kyomachiya.net
URL: <http://www.kyomachiya.net/>

特定非営利活動法人京町家再生研究会は1992年(平成4)設計者・職人などの技術者や研究者、京町家の居住者を中心となって発足しました。本部は京都市街地中心部にある表屋造りの大型町家にあります。京町家所有者をはじめとする親睦団体「京町家友の会」や不動産流通を扱う「京町家情報センター」と連携しながら活動を続けています。

2018年5月に「京都市京町家の保



京町家親子体験教室(2019年1月、小正月、小豆粥を楽しむ)



京町家設計塾(2018年度、釜座町町家で実測のグループワーク)

全及び継承に係る条例」が施行されましたが、京町家の滅失は止まりません。解体または一部だけ残してホテルに建て替える例が増えています。外観は整えられても、京町家と一体になっていた文化や歴史はどうなるのか、疑問です。2019年秋、ようやく旧市街地の田の字地区にほぼ相当する職住共存地区を京町家保全継承地区に指定する動きが出てきました。今後は中身をいかに継承していくのか、京町家の価値を再認識できるような取り組みが必要になると考えられ、取り組みを進めています。

その一つ、2018年度より始めた京町家親子体験教室は2期目を迎え、さらにプログラムの拡充を図りました。また、地域の小学校と協働して多くの子どもたちに本部の京町家を見学してもらう機会も作りました。本物とふれあい、暮らしの良さを発見する子どもたちの感性を大事にしたいと考えています。

若手育成の機会として開催している京町家設計塾は今年度3期目を迎えました。1期、2期の受講生が実測や調査の手伝いに関わるなど、少しずつ活動を広げています。

2010年にワールド・モノユメントファンドの支援を受けて再生した釜座町町家と本部がある明倫学区のまちづくり委員会と連携し、地域住民の意思を尊重する仕組みづくりを検討しているところです。2020年3月には新しい試みとして、まちなかで音楽を楽しむことをきっかけに、京町家とまちに興味を持っていただけのようなプログラムを企画中です。

京都・美山・北村かやぶきの里保存会

設立年 1993年3月
会員数 98名
代表者 中野忠樹
所在地 京都府南丹市美山町北
電話 077-77-0550

京都府のほぼ中央に位置する美山町北集落は、平成5年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。高い山を背に、ひな壇状にかやぶき民家が建ち並ぶ景観は、「日本の原風景を残すところ」として評価され、多く



の来訪者を迎えています。

選定当時、「お店の立ち並ぶ観光地にしない」を合い言葉に、農村景観を支える「暮らし」を守ることを最優先に取り組んできました。景観保存とその活用のバランスをとることは難しく、25年を経過して後継者不足と空き家問題が深刻になってきています。今まで無料だった駐車料金を徴収することを決め、資金を景観保存に生かそうと考えています。国民から預かった文化財を、地域住民だけではなく、多くの方々と力を合わせて守り続けていきたいと思っています。

港まち神戸を愛する会

設立年 1989年2月
会員数 70名
代表者 武田則明(会長)
連絡先 651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉4-10-23 中尾方
Mail minatomachikobelove@gmail.com

3年前、第39回前沢・大内大会の各地からの報告で発表した、神戸市中央区相生町の旧三菱銀行神戸支店(明治33年、曾禰達蔵設計)の解体、外壁再現と高層マンション兼建設計画は、この秋に事実上の完成に至った。

支店跡地に建設されたザ・パークハウス神戸タワーの低層部に、従前よりも2乃至4メートル壁面後退させた位置に旧材を取りつけて再現された旧銀行の外観は、栄町通・宇治川筋の神戸中央郵便局前交差点から見たときは、さほど解体前と変わらない長めであるが、元町通商店街のアーケード前で信号待ちしながら眺めると、明らかに衝立状で立面を再現しているに過ぎないことが明白となる。

また高層部のバルコニーのスラブと同系色で再現外壁のパラペット(天端)を仕上げたことや、高層部と外壁再現部の取り合いに無理もあり、オリンピック準備に伴う建設資材費等の高騰

によるコストアップを縮減するためか再現外壁と接する敷地際の舗装材に材質的に釣り合わないインターロッキングを用いるなど、開発者である三菱地所レジデンスがマンション販売時に喧伝した「神戸遺産」、「(神戸市)都市形成重要建造物復元プロジェクト」というキャッチコピーとは隔たりのある細部を現地で見せている。

開発者側は、旧建物の石造のアーチなどの部材をエントランスホールに移設し、更には解体前の営業室に似せた内装とすることで、「外壁再現の「腰巻保存」ではなく内部空間も一定再現している」と胸を張っていたが、本来であればワンスパンでも保存する方法であれば旧建物の価値を一定は継承できる形となっただろう。数億円のコストを掛けた割に、元の建物が活きた形にならなかったのは、出発点を間違えていた、という一言に尽きる。

平成2年の神戸地方裁判所(明治37年、河合浩蔵設計)の3面ファサード保存から、種々の外壁保存が神戸では行われてきたが、なんとも後味の悪い結果となった今回の事例。今後に向けた課題をはらんでいるとも考えられ、会では関係機関へのアクションを考えている。



改築前・後の旧三菱銀行神戸支店

霞城文化自然保勝会

設立年 昭和56年1月25日
 会員数 1534名
 代表者 浅井昌信
 所在地 〒679-4178 兵庫県たつの市龍野町大手5-4-1
 電話 0791-63-4573
 FAX 0791-62-5054
 Mail: carhouse@oregano.ocn.ne.jp

霞城文化自然保勝会は、昭和56年に発足、今年度で3年になります。活動の目的は、郷土龍野のシンボルである龍野公園・緊遠亭龍野城・霞城町・鶏籠山及び広くその周辺一帯の文化遺産と自然を当局に協力して環境保全につとめることです。江戸時代の町割りをはじめとそのままに、城跡、武家屋敷、町屋、醤油蔵、寺院、宿場の名残を点在させている。目立った観光資源はないが、小半日で一廻り出来る町並みは周囲の自然と調和し、訪れる人達も「夕焼け小焼けの赤とんぼ…」とロザミたくなる雰囲気があります。

龍野神社石段周辺の安全対策補修工事や脇坂住宅のフェンスや石段に手摺りを設置。一目三千本と言われる龍野公園のソメイヨシノは戦後植えられて一般的に言われる「六十年寿命」を迎えようとしています。そこで樹木医の指導を頂きながら施肥、日当たり、「桜切るバカ」の通説があるが適正に選定する事によって新旧の枝や幹の更新を図る事ができます。「龍野公園の開花



菰をかけている桜の木は、龍野の開花宣言をする桜の木です



菰を取って不定根の生育を調べたもので、この太い根は不定根で地面まで伸びています。まわりの細いのは根毛です

宣言」の標準木に不定根を育成し、樹勢を回復させております「県民まちなみ緑化事業」を利用して、鹿対策を考慮して45mの大きな桜150本程植えました。また、龍野神社並びに龍野公園周辺には30程の碑があり、説明板を設置してから十五年程経過、傷み具合によって順次修理をしていく必要があります。このような事業に取り組んでおります。

口銀谷の町並みをつくる会

設立年 平成11年
 会員数 42名
 代表者 花尾定義(会長)
 連絡先 〒679-3301 兵庫県朝来市生野町口銀谷640番地井筒屋内
 TEL/FAX 079-679-4448
 Mail: ikunomine@gmail.com

兵庫県朝来市の生野町には、佐渡金山とともに日本を代表する生野銀山があり、我が国の国際貿易や産業経済を支えるとともに、鉱工業技術の開発に貢献してきました。

口銀谷(くちがなや)地区には、戦国時代より続いてきた鉱山独特の鉱山遺産や鉱山社宅、生野鉱山迎賓館の生野クラブなどの落ち着いた町並み、鉱山町ならではの暮らしや文化が数多く育まれており、今も鉱工業の営みが続けられています。

本会では、情報紙「いぶし銀」発行や「景観まちづくりシンポジウム」開催などのほか、景観資源調査やトロッコ道の草刈り清掃、町家改修説明会や町並み散策ガイドマニュアルの発行など様々な活動を展開しています。

平成26年には「生野鉱山及び鉱山町の文化的景観」が、兵庫県で初めて国重要文化的景観に選定されました。



豊岡まちなみ連盟

城崎温泉町並みの会、出石城下町を活かす会、豊岡まち塾、たけの町並み伝承会

設立年 2016年

会員数 193名

代表者 四角澄朗（会長、城崎温泉町並みの会代表）

所在地 豊岡市中央町14番13号

豊岡まちなみゼミは第3回として、「豊岡まち塾」を中心に「豊岡まちなみゼミ豊岡中心市街地大会」を6月17日（日）に開催した。午前中は、旧豊岡藩城下を出発して、近代化によって広がっていった町並みを歩き、新たな試みとして、近代化で取り残された旧円山川の廃川をカヌーで巡った。また、中心市街地にある1925年に発生した北但大震災からの復興建築を見学し、午後からのシンポジウムに臨んだ。

シンポジウムの会場は、1986年に建てられた県立豊岡高校同窓会館である達徳会館。まず連盟理事の西村幸夫先生から、まちづくりのヒントとなる豊岡の町並みの面白さなどについて基調講演をいただいた。その後、震災復興建築をどう活かすかをテーマにグループ討議を行った。参加者は50名と少なかったが、内容の濃いまちなみゼミであった。来年は、出石を会場に開催する。

7月24日（火）、出石城下町を活かす会の設立30周年記念式典が出石永楽館で開催された。代々の会長3名が功労者として表彰されたのち、劇作家である平田オリザ氏による文化と観光

を活かしたまちづくりについての記念講演があった。9月29日（土）には、たけの町並み伝承会による焼板まつりが、竹野漁協の海町マーケットなどと同時に開催される予定である。

豊岡まちなみ連盟を構成する4つの団体、城崎温泉町並みの会、出石城下町を活かす会、豊岡まち塾、たけの町並み伝承会が、それぞれの特色を活かした活動を展開している。

湯浅伝建地区保存協議会

設立年 2007年4月

会員数 38名

代表者 木下智之（会長）

連絡先 湯浅伝建地区保存協議会事務局

所在地 643-0002 和歌山県有田郡湯浅町青木668-1 湯浅町役場地方創生ブランド戦略推進課歴史文化係

電話 0737-63-2525（代）

Mail:

rekishibunka@town.yuasa.lg.jp（事務局）

denken-yuasa@zeus.eonet.ne.jp（保存協議会）

URL: <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa/>

皆さま、はじめまして。令和元年度から、全国町並み保存連盟の仲間入りをさせていただいた湯浅伝建地区保存協議会です。私たちの湯浅は、醤油の醸造を中心にした商工業都市として発展した町です。比較的広い「通り」とその間を迷路のように走る「小路」で構成される街路空間の中に、近世から昭和へと時代ごとに移り変わる町家や醸造業にも使用された土蔵が並んでい

ます。平成18年12月に、醸造町として重伝建の選定を受け、町並み保存に取り組んでいるところです。

私たち、湯浅伝建地区保存協議会は、地区の住民や建物所有者によって構成されています。重伝建の選定前である平成16年に自治会単位で結成された伝建協議会をひとつの組織として平成19年に現在の組織となりました。行政と一緒に町並み保存について考え、住民の立場で協議し、自分たちで出来ることを考える中で、地区の活性化にも取り組んでいます。

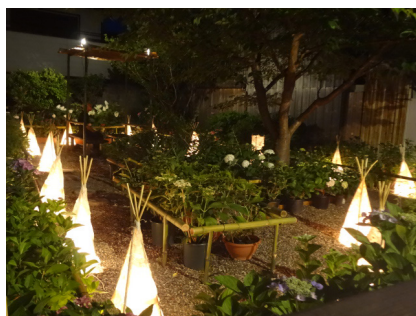
ひとつは、湯浅の人々に親しまれた銭湯だった建物を使った資料館「甚風呂」の運営です。訪れる観光客の方々への施設や展示品の説明等を通じて、観光客の方々へのおもてなしを行っているほか、子どもたちの地域学習の場としての活用も行っています。

もうひとつは、地区の活性化を目的としたイベントの開催です。平成26年にスタートした「ひな人形展」は、地区内の施設や民家にひな人形を飾りつけるもので、平成31年には伝建地区外も含めて20ヶ所を超える場所に展示をしました。また、期間後には組立式の御殿の中にひな人形を飾る「御殿雛」を甚風呂に集めた特別展を行い、大変好評でした。他にも、色とりどりのあじさいで地区を彩る「あじさいめぐり」や、「五月人形めぐり」、行灯で夜の伝建地区を照らす「行灯ライトアップ」など、様々なイベントを実施しています。イベントのために訪れていただく観光客だけでなく、地区や近隣の方々にも楽しんでいただけるようなイベントとなっています。

他にも、まちなみ瓦版の発行や、年に1回の視察研修、定期的な会議の開催など、町並みの保存と地区の活性化のための様々な取り組みを行っています。



豊岡まちなみゼミ豊岡中心市街地大会



御殿雛

公益社団法人 奈良まちづくりセンター

設立年 1979 年
法人化 1984 年（社団法人）
2014 年（公益社団法人）
会員数 107 名
代表者 二十軒起夫（理事長）
連絡先 636-8333 奈良市中新屋町 2-1 奈良
町物語館内
電 話 0742-26-3476
FAX 0742-27-0969
Mail: nmc@m4.kcn.ne.jp
URL: http://www4.kcn.ne.jp/~nmc/

奈良まちづくりセンターは、奈良町をベースに伝統的町並み、建物の保存・活用と地域の活性化をはかるため、30 数年にわたって活動を行っている。

活動範囲はアジア各地にも広がっており、2019 年 11 月には、中国福建省・アモイの華僑大学で、国際交流基金の助成を受けて 10 ヶ国が参加し、「アジア・ヘリテイジ・ネットワーク (AHN) 国際シンポジウム～アジアの町並み保存と多様性に富む歴史的コミュニティの未来～」を開催した。2015 年には、奈良町で空き家となった大正期の町家を奈良市が買収・改修して「奈良町にぎわいの家」として公開した。この建物の指定管理者として、奈良まちづくりセンターなど 3 つの市民団体が共同して管理運営にあたり、二十四節気をテーマに奈良町の生活文化の発信に務めている。また、文化庁の助成を受けて、奈良町の歴史・文化遺産を活かし



AHN 廈門シンポジウム 2019.11.8-10



かまど体験

た地域活性化事業「奈良町モノ語り調査」に取り組んでいる。

当センターの設立当初から奈良の景観・風景を守り育てる活動を展開しているが、毎年、景観をテーマにしたシンポジウムを開催している。

また当センターの拠点である「奈良町物語館」は、築 120 年を超える町家を改修したもので、積極的にまちづくり情報発信活動を展開している。

今井町町並み保存会

設立年 1971 年
会員数 約 90 名
代表者 若林稔
連絡先 〒634-0812 奈良県橿原市今井町
3-8-8 今井まちづくりセンター内
電 話 0744-22-1128
Mail: imaicho@m3.kcn.ne.jp
URL: http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/

中国・四国ブロック

NPO 法人倉敷町家トラスト

設立年 2006 年 5 月
法人化 2006 年 10 月認証
会員数 226 名（内正会員 48 名）
理事会 理事 13 名
中村泰典（代表理事）
所在地 〒710-0053 岡山県倉敷市東町
1-21
電 話 080-5232-6462
Mail: info@kurashiki-machiya-trust.jp
http://kurashiki-machiya-trust.jp

○団体の設立の経緯と目的

近年、倉敷川畔重要伝統的建造物群保存地区及び周辺も人口減少と高齢化によって空き家が増加していた。地域の町家調査研究と未利用町家を町家生活体験・滞在・定住促進・経済活動・地域活動などの場として再生・利活用を目的に平成 18 年に NPO 法人として設立した。

○活動

- ・「まちにあかりを灯す」がキーワード！
- ・町家再生利活用
- ・『備中 no 町家 de クラス』平成 26 年～毎年実施
- ・備中町並みゼミ開催 平成 26 年～から毎年実施
- ・倉敷中心市街地町家調査（ほぼ隔年で調査、この活動から倉敷まちづくり基金が生まれた）
- ・町家保全のための政策提言
- ・町家保存の相談・支援事業
- ・SDGs の事業の取り組み支援
- ・中心市街地景観形成シンポジウム（2019）

○保存整備・利活用の状況

町家生活体験・滞在施設 1 軒、商業施設 4 軒、住居兼店舗 2 軒、住居専用 6 軒、交流拠点 3 軒、仲介 2 件、塀の修景 2 件の計 20 件。設立当初は、未



倉敷屏風祭り（地元神社の秋祭り）

利用町家の利活用の視点から、商店、住宅、交流施設など幅広い用途での町家整備を進めていたが、近年、NPOならではの公益的視点に立ち、地域交流拠点、ソーシャルビジネスの拠点、福祉、教育など公益的な活動と新たな価値創造を生む場づくりに向けて、重伝建地区だけでなく隣接する周辺の町家再生にも積極的に取り組んでいる。

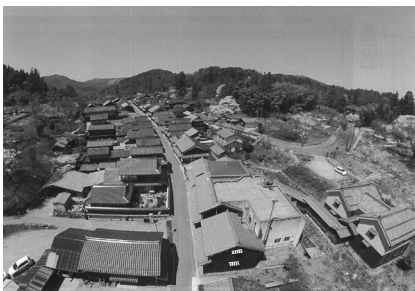
吹屋町並保存会

設立年 1978年4月1日
会員数 59名
代表者 深見薫（会長）
連絡先 〒719-2341 岡山県高梁市成羽町吹屋838-2 高梁市成羽地域局「吹屋連絡所」
電話 0866-29-2222
FAX 0866-29-2233

岡山県の西北に位置する私たちの町吹屋地区は人口430人くらいで高齢化も進んでいますが、最近は町並みに変化が見られます。若い人の移住や近隣の退職者等の空家の活用です。少しずつ活気が戻れば大きな力となります。

また、令和元年度は町並みの中でロケが行われました。司馬遼太郎原作「燃えよ剣」。出演岡田准一さん、柴咲コウさん等、監督原田真人さんです。吹屋の町並みが大掛かりな大道具、小道具で幕末の時代に変わりました。公開2020年5月だそうです。

それから、吹屋は星がとても綺麗で、たくさん見えるそうです。テカポの星空に匹敵する美しさだそうです。日本でも自慢できる宝を若い人が発見してくれました。今後楽しみにしてください。



かもがた町家管理組合

設立年 1998年9月
会員数 70名
代表者 山下和道（組合長）
所在地 〒719-0243 岡山県浅口市鴨方町鴨方240
電話 0865-45-8040
FAX 0865-44-6089
Mail: machiya@kcv.ne.jp

かもがた町家管理組合（七種の会）は、浅口市からの委託を受け、かもがた町家公園の管理運営を行う地域住民を主体としたボランティア組織です。かもがた町家公園は、平成18年度に「日本の歴史公園百選」に選定されており、浅口市を代表する歴史公園として市内外から多くの来園者を集めています。平成25年度には、第36回全国町並みゼミ倉敷大会が開催され、当園は分科会場として盛況に執り行われました。

当管理組合は、公園の清掃や植物の管理を行う管理部、歴史的建造物や郷土史等の解説や案内を行う案内部、琴・茶道・生花・昔話の文化活動を行う文化部、和風喫茶「まちや亭」でおもてなしを行う食堂部の4部から構成されています。

事業として、昔の暮らしや遊びなどを子ども達に伝え体験させる「町家塾」を中心とした行事を企画しています。この塾は、月1回程度開催し、柏餅作り、麦稈真田組み、貨幣の鋳造体験、火起こし体験、神楽の体験などを実施しています。

更に、町家公園茶会、琴塾（子ども達の琴の練習）、書道、絵画、短歌、漢詩、詩吟、俳句等の地域住民が参加する生涯学習、高齢者サロンなどの交流の場や親子で参加する映画会、折紙教室、昔話語り会、落語会など、子ども達を対象とした事業も数多く実施しており、次世代を担う子ども達へ地域の伝統文化を継承する活動を展開して



います。

平成30年は町家公園開園20周年に当たり、近隣大学の学生さん達を招いて20周年記念コンサートを行いました。他にも新たな事業として、「町家の怪談ナイト」と題し、夏の夜に三絃の伴奏の元、背筋の寒くなるような朗読会を行いました。また、「町家でカフェ」と題し、園内で珈琲の焙煎体験も新規事業として行いました。このように、新たな町家の魅力発見に繋がるように日々活動しています。

NPO法人鞆まちづくり工房

設立年 2003年4月
会員数 団体3・個人250名
代表者 松居秀子（代表理事）
所在地 〒720-0201 広島県福山市鞆町鞆5番地
TEL 084-982-0535
FAX 084-971-7230
Mail: npo-tomo@vesta.dti.ne.jp
URL: <http://www.vesta.dti.ne.jp/~npo-tomo/>

瀬戸内海のほぼ中央に位置し、万葉時代から近世に至るまで港町として栄えてきた鞆の浦は、伝統的町並みや港湾施設など、数多くの歴史的遺産とともに、独特の暮らし・生業・祭・人情・風情など、現代社会が忘れてしまった豊かさを今も留めています。

しかし他の古い町と同様に、鞆の町も高齢化、過疎化、歴史的建造物の老朽化などの多くの問題を抱えています。それらの課題に取り組むべく、私たちは2003年にNPO法人を立ち上げ、空家利活用を中心に活動してきました。その成果として、現在までに40軒程の空家が店舗として甦っています。しかし、こうして店舗が増え活気づいてきたものの、それが住まう人の数に比例していないという問題もあります。また、鞆に100軒近くある空家のうち、貸してもらえない物件はほんのわずかしかないうのも実



鞆・暮らしと町並み研究会」の設立集会（提供：9月28日中国新聞記事より）

情です。さまざまな事情を持つ空家所有者に、利活用に対する関心や「町を担っている」という意識を持ってもらい、入居できる家を増やしていくことがとても重要になってきます。

その一環として、私たちは2016年より他の社団法人などと連携して新たな空き家再生事業にも取り組み始めました。

福山市は、昨年（2017年7月）やっと、鞆の浦の重伝建地区選定を申請しました。ところが、福山市の指導による修復の仕方に問題が生じており、伝建地区制度自体の周知も十分でないため、ほとんどの住民が文化財保護法の伝建地区制度による修復の意味を理解できていません。これ以上、貴重な建物を失わないため、また、福山市の諸事情により、町並み保存の会の必要性が求められ、改めて私たちは、行政と住民がより連携して町並み保存整備を進めていくため、地域住民主体の組織「鞆・暮らしと町並み研究会」を昨年9月28日立ち上げました。

城下町松江の景観と町づくりを考える会

設立年 2006年4月22日
会員数 350人
代表者 三反田輝雄（代表世話人）
連絡先 〒690-0886 松江市母衣町43
電話 0852-23-7738

こんぴら門前町を守る会

設立年 1978年
会員数 11名
代表者 位野木正（会長）
連絡先 〒765-0052 香川県善通寺市大麻町344-1 灸まん美術館気付
電話 0877-75-3000

風の港まちづくりネットワーク

設立年 2015年
会員数 50名
代表者 高田千浪（会長）
連絡先 〒769-2901 香川県東かがわ市引田2362番地
電話 080-6391-0273（永峰）
Mail: kyonogohanwahamachi@yahoo.co.jp
URL: <http://kazemachi-net.jp>

2019年、香川県の最東端、東かがわ市では4月に選挙が行われ、四国最年少市長となる上村一郎さんが就任するなど、市の枠組みに変化が現れた1年でした。風まちネットワークでも、新市長

と地域活性化に関して意見交換を行うなど、新たな動きが始まりました。

また11月には、国の文化審議会にて引田城跡が国史跡に答申され、市内初の国史跡となることが内定しました。

引田城は、瀬戸内海に突き出た半島に位置し、土佐の長宗我部元親の四国攻めの際の戦地となりました。また、豊臣秀吉より讃岐一国を与えられた生駒親正によって総石垣の織豊式城郭へ整備され、高松城、丸亀城とともに、讃岐支配の重要拠点となりました。

引田の街並み地区は、港町だけでなく、城下町としての面影もよく残しており、今後は城跡と合わせた観光・文化の振興が重要になってくる見込みです。

しかし空き家の増加が進み、老朽化した建築物がますます目立つようになりました。地区内で活動している他の団体の高齢化も進んでいます。地区のシンボルチックな建物である、旧引田郵便局舎（国の登録有形文化財）の外壁の一部が崩壊し、これを受けネットでは、局舎の保存と活用に関する署名活動を行いました。市内外から1400名超の署名を頂き、市教育委員会に提出しました。さらに風まちネットワークが中心となって、崩壊箇所の応急処置を行いました。あたたかいお声を頂く一方で、市民の皆様の町並み保存や活用への認識や理解が乏しい現状にあることに改めて気付かされました。

2020年3月には、全国町並み保存連盟の理事会が引田にて開催されるこ

とになりました。町並み地区のご案内や、楽しい交流の企画を考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

脇町南町町並保存会

設立年 1986年6月
会員数 80名
代表者 甘利稔（会長）
所在地 〒779-3610 徳島県美馬市脇町大字脇町61-1 甘利方

歴史遺産の「うだつの町並み」は、昭和63年に文化庁より全国で28番目に重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから、35年が経過しました。

その間、電線の地中化が実現し、重伝建に選定されている建造物88棟の修理、修景事業の進捗状況も8割に達しています。35年前から町づくり交付金事業も行われ、町並みの周辺の環境整備も順調に進んでいます。

430mの「うだつの町並み」の通りには、うだつ、むしこ窓、格子戸、しとみ戸、のれん掛けなど備えた本瓦葺きの重厚な江戸時代や明治時代の建造物が軒を連ねているので、テレビドラマや映画の舞台として、よくロケが行われ、テレビで人気のあった「水戸黄門」のロケも行われました。また、数年前から華道家の假屋崎晋吾の「うだつをいける」の華道展などが行われるようになり、冬の風物詩として親しまれ、町の活性化に役立っています。年間22万人の観光客が訪れ、リピーターも増加しています。

平成24年10月28日は、天皇陛下（当時皇太子殿下）が「うだつの町並み」に行啓されるという光栄に浴しました。その時、町並み保存に対してお褒めの言葉をいただき、この上ない光栄なことで感動しています。

今後の課題は、会員の高齢化に対応した町並み保存を考えていくことです。



旧引田郵便局舎



内子町八日市護国地区町並保存会

設立年 1976年4月
会員数 正会員89名、賛助会員54名
代表者 芳我明彦（会長）
連絡先 〒791-3310 愛媛県喜多郡内子町
城廻 211
電話 0893-44-5212
Mail: t-yasukawa@town.uchiko.ehime.jp

八日市護国地区町並保存会は、設立以来四十三年を迎えました。その間、保存運動の甲斐あって町並みの状況はほとんど変わりなく推移しています。その根底には、行政と手を携えて行ってきた修理・修景という地道な作業があります。観光客から「商業化されていない静かな雰囲気がいい」「人が住んで日常生活を営んでいるのがいい」という感想をよく聞きます。観光過密化（オーバーツーリズム）のないところが、逆に売りになるのかもしれない。

現在、会員の高齢化が進み、役員の多くが6～70代という状況ながら、八月の七夕飾り・中秋名月の観月会・正月飾りを焼く「どんど焼き」などの行事を続けております。特に観月会には、地元の松山大学生の加勢を得ています。今後は保存地区の数少ない比較的若い世代にも、様々な協力を呼びかける必要があると感じています。行事だけでなく、肩の凝らない学習会など学びの機会も作りたいものです。

現在、実施されている歴史的風致維持向上計画にもとづき、保存地区以外でも歴史的建造物等の保存や活用之道を検討していこうという方向性があるのは喜ばしいことだと思います。

いずれにしても、重伝建地区に住む私たちは「町並みを保存していくという地味な活動に、地道に取り組んでいく」という基本姿勢を忘れずに、引き続き品格のある町並みづくりを目指していきたいと考えております。



雪の内子町

地域ねっと研究会UWA

設立年 2007年8月
会員数 30名
代表者 大氣博志
連絡先 〒797-0015 西予市宇和町卯之町
3-179-2 三好教貴方

重要伝統的建造物群保存地区の卯之町中町地区のからさほど離れていないところに下町（しもんちょう）と呼ばれる地区があります。その地区の中心には、小さな森に囲まれた王子神社と呼ばれる、地域の方に親しまれている神社があります。夏祭り、秋祭り、輪抜けなど、昔から人々が集い心のよりどころとした神社です。ただ、やはり高齢化、過疎化は避けられず、地域のつながりも薄くなり、さらには子供たちの声も聞かれなくなった。こんな状況を何とかしたい。故郷の良さ、そして少しでも賑わいを取り戻したいとこの地区の有志を中心に、一夜限りのライトアップ「王子の灯り」が開催されました。

令和元年11月27日の新月の夜、有志、スタッフが思いを込めた1500個の様々な色の灯が王子神社の境内を彩りました。また、冬の夜の澄み切った空気にオペラの歌声が響き、幽玄な雰囲気を味わうこともできました。時折、小雨の降る肌寒い夜にもかかわらず多くの方が訪れ（約200人）、楽しんでいただきました。

小さな声から始まった「王子の灯り」下町に新しい輪が広がりつつあります。中町とは違った趣のある下町のこれからが楽しみです。



王子神社

NPO法人吉良川町並み保存会

設立年 1996年7月
会員数 135名
代表者 青木準吉
連絡先 781-6832 高知県室戸市吉良川町甲
2200-1

TEL/FAX 0887-25-3670
保存会携帯番号：090-8978-4516
Mail: kiragawa-machinami@muroto.fiberbit.net
Brog: <http://kiramachi.jugem.jp/>
URL: <http://www.muroto.fiberbit.net/kiragawa-machinami/>



ガイド養成講座の様子①
座学



ガイド養成講座の様子②
フィールド（町並み）



恒例行事のふるさと市の一場面（餅つき）

九州・沖縄ブロック

宿場木屋瀬街づくりの会

設立年 1991年9月
会員数 60名
代表者 藤政文
連絡先 〒807-1261 北九州市八幡西区木屋瀬 2-8-5

一般社団法人 内野地区活性化推進会議

創立年 平成20年10月1日
設立年 平成26年10月1日
会員数 258名
代表者 多田篤弘(会長)
所在地 〒820-0706 福岡県飯塚市3313
TEL/FAX 0948-72-5581
Mail: uchinosityuku@bz04.plala.or.jp
URL: <http://www.nagasaki-kaido-uchinosyuku.jp/>

内野宿は江戸時代、長崎街道筑前六宿の一つとして栄え、現在も旧宿場内を通る街道は道幅・道筋とも江戸時代のままであり、家々の間口も当時のままに引き継がれたものが多く、江戸時代の面影を色濃く残しています。内野宿と山家宿の間に位置し、文化庁の「歴史の道百選」に選定された難所冷水峠の石畳道も当時のまま残っています。英国初代駐日公使オールコックはその著書「大君の都」の中で、『七日目に内野へいく途中で通過したところには、画家が描くにはふさわしい景色が多かった』と書き記しています。この長崎街道冷水峠をワラジで歩く江戸旅体験、弁当は竹の皮で包んだおにぎりを行っています。



八女福島町並み保存会

設立年 1994年12月
会員数 約500名
代表者 牧野紘實(会長)
連絡先 福岡県八女市本町647 八女市企画部地域振興課内
電話 0943-24-8164
Mail: machinamikeikan@city.yame.lg.jp
Blog: <http://yamefukutu.exblog.jp> (ブログ版 八女福島町並み通信)

私たちは、八女福島伝建地区及びその周辺の町並みを、貴重な文化遺産として積極的に活用を図りながら保存継承するとともに、住環境の向上及び住民意識の高揚を図りつつ、公民協働による歴史・景観まちづくりの活動を展開している。

具体的活動は、街なみ環境整備事業(国交省、1995(平成7)年事業開始)と伝建保存修理事業(文化庁、2002(平成14)年重伝建地区選定)を活用した町並みの保存整備事業に関する市への提案と住民への周知、機関紙「町並み通信」による情報発信、修理技術の伝承及び修理事業の見学会、空き家再生活用などの活動を行っている。

最近では、市補助事業による町家の修理・修景事業が進み、本保存会と各NPO等のまちづくり団体と協働による活動により、空き町家を再生活用した店舗や工房、住宅等が徐々に増えている。1993年(平成5)から今日まで、約63件の空き家が再生活用され、住宅、蕎麦屋・レストラン・居酒屋・カフェ等及びアンテナショップ・雑貨店等の店舗、木・クラフト等の工房など(店舗24、工房7、介護施設3、事務所2、簡易宿所2、専用住宅25)として活用が進んでいる。一部では若い世代の町家の継ぎ手も増え、地域コミュニティ維持に若い新住民が寄与する現象も生まれている。一方で、少子高齢化が深刻さを増し空き家が増加する中、遠方の所有者から委託を受け修理活用を代行する仕組みを確立するなど、持

続的なまちづくり活動を推進しつつ、町家ホテル事業の展開に力を入れている。

黒木地区町並み保存協議会

設立年 2005年1月18日
会員数 34名
代表者 富田利満(会長)
連絡先 834-1292 福岡県八女市黒木町今1314-1(八女市黒木支所産業経済課商工観光係)
電話 0943-42-1115(事務局・市黒木支所産業経済課商工観光係)
Mail: kurogishokokankokakari@city.yame.lg.jp

私たちは、黒木伝建地区(H21年選定)を主体とした在郷町の町並みの活用を図りながら文化遺産として継承し、生活環境の向上を図ることを目的に活動しています。H22年の市町村合併後は、同じ市内となった八女福島地区の諸団体と交流を図りつつ、保存整備事業を計画的に進めています。今年は、さらに活動の充実を図るべく、会員を増やそうと伝統家屋の所有者



黒木・マップ作成町歩き
(2018年10月21日)

◇ 新たな魅力を発信する活用 ◇



◇ 地元の酒をもっと愛でよう ◇



エーエージェントプラス 恵比寿酒店 2018年2月～



福岡市内のIT企業・出店

(特に修理事業利用者)や町内のまちづくり組織に入会をはたらきかけています。

伝統家屋の伝建修理事業は、年4～5棟を地元建築集団・黒木町並みデザイン研究会の協力及び施主の理解で、建物の履歴に基づき、元気だった時代に近づけることを目指して、取り組んでいます。

一方、少子高齢化は、深刻さを増し、伝統家屋の空き家は増えており、継手受入れのサポートをする空き家対策は、緊急の課題となっています。八女福島で活動しているNPO法人八女町家再生応援団(空き家の所有者を説得し、修理事業や入居者のサポート活動している団体)などと情報交換をしつつ対応を模索しています。また今年は黒木町地域全体の空き家問題にとりくむNPO法人「あきやもり」も立ち上がり、こことも連携しながら問題解決をしていきたいと思っています。

NPO法人 小保・榎津 藩境のまち保存会

設立年 2009年11月
法人化 2016年4月
会員数 正会員50名
賛助会員 個人18名、9企業、1団体
代表者 中村隆志(理事長)
連絡先 831-0041 福岡県大川市大字小保173番地
TEL/FAX 0944-87-0931
hanzakai@gmail.com
https://hanzakaihozonkai.jimdo.com/

福岡県南西部大川市のほぼ中心に位置する小保・榎津地区は江戸時代柳河藩と久留米藩の藩境の町として、又大川市の基幹産業である木工業の発祥の地として知られ、その町並みの起源は中世に遡ります。町並みには国指定重要文化財「旧吉原家住宅」、市指定文化財「高橋家住宅」、地区唯一の武家



小保・榎津藩境まつり～花嫁道中～
旧吉原家住宅御成門前

屋敷「緒方家住宅」をはじめ江戸期から昭和初期までの多様な町家が残されています。

2016年策定した『第二次藩境まちづくり構想』の実現に向け、地域の方々と信頼関係の構築に努め、以下の活動を重点的に取り組んでまいります。

1. 平成31年4月より大川市より受託した「旧吉原家住宅」の管理及び自主事業の運営
2. 「町並み見守り隊」による聞き取り調査と「たてものバンク」の設置
3. 空き家の活用を推進する活動
4. 街なみ環境整備事業推進のための取り組み(行政との協働)
5. 伝統的建造物の修理を担える人材の育成、確保や技術習得のための勉強会、修理現場視察などの実施
6. 「第21回小保・榎津藩境まつり」への協力

神浦町並み保存会 あづち大島たからものの会

設立年 2004年2月4日
代表者 丸田圭介(代表)
事務局 〒859-5801 長崎県平戸市大島村神浦52
電話 0950-55-2487
Mail: gr475542@gj8.so-net.jp 米村

平成20年、重要伝統的建造物保存地区となる。九州の北西、玄界灘を望む周囲38kmの離島。過疎化、ないない尽くしの中、江戸期・明治期の建築が多い町並みの再生に腐心。

空き家活用を考え、毎年「スギ花粉避粉地体験ツアー」を実施。きれいな空気と静かな時間、玄界灘の水平線、風力発電風車、刺身など冬の味覚、歴史的町並みの景観、花粉症のリフレッシュを実感してもらふ素朴なもてなしでお出迎え。



NPO法人 肥前浜宿水とまちなみの会

設立年 2005年
会員数 個人70、法人4
代表者 中島丈夫
所在地 〒849-1322 佐賀県鹿島市浜町9366番地
電話 0954-69-8004
Mail: npohama@po.asunet.ne.jp

肥前浜宿は鹿島市の多良海道(長崎街道の脇街道)沿いに位置し平成18年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。選定後保存修復が続く中で、平成23年IWC(世界的な酒のコンテスト)でチャンピオンとなる酒が誕生し日本で初めての試み「鹿島酒蔵ツーリズム」がはじまりました。その後の活動が評価され、2016年には日本ユネスコ協会連盟の100年後の子供たち遺すために「プロジェクト未来遺産2016」に登録されました。新たな動きとして2018年、古民家の再生のためまちづくり会社「(株)肥前浜宿まちづくり公社」が発足し、総務省のローカル10000プロジェクトの助成を受け、ゲストハウス2軒、蕎麦屋、角打ち屋が2019年4月にオープンしました。

近年、外国人観光客も増加、最寄りの祐徳稲荷神社と肥前浜宿は長崎線肥前浜駅の改修効果もあり頻繁に観光列車が停車するようになり活況を呈しています。今日まで順調に推移していますが、会員の高齢化・空き家の増加等、他団体と同様の悩みもあります。身近な問題を解決しながら、次世代に



ゲストハウスまる



肥前浜駅での観光列車おもてなし

繋ぐ夢プランを描きながら進んでまいります。

今年のトップニュースは日経プラス1の宿場町ランキングでベストテン入り(全国8位)したこと、肥前浜宿を中心に開催している「鹿島酒蔵ツーリズム」がふるさとづくり大賞受賞が内定したことです。

町並みとまちづくりを考える 大分県民の会

設立年 1984年3月

会員数 35人

代表者 片岡正喜(代表委員)

岸川多恵子

連絡先 870-0815 大分市南春日町5-19

電話 097-544-7537

町並みとまちづくりを考える大分県民の会は、第6回臼杵ゼミをきっかけとして、設立しました。今年で35周年になります。

主な活動は、大分県内や近県の歴史的町並みをふるさと拝見と称して見学し、当地区の関係者と交流を行い、町並み景観やまちづくりの取組み事例などについて勉強会を継続的に行っています。

最近では、平成31年3月23日～24日に臼杵市で、第6回九州町並みゼミ臼杵大会に参加しました。文化庁の下間久美子主任調査官の基調講演「歴史を活かしたまちづくりの新潮流」に始まり、パネルディスカッション「地域資源と地域デザイン」。夜は久家の大蔵での交流会で盛り上がり、翌日は、パネルディスカッション「古民家・空

き家の改修の課題」。鼎談「本物で勝負する歴史的都市」で、飯田市長、臼杵市長、大森洋子さんの話を聞いて、とっても内容の充実した2日間をすごしました。最後に、参加者全員で、記念写真に納まりました。

5月は、ふるさと拝見で姫島にフェリーで渡り、日本ジオパークの島に残る古い建物など探してみました。最後に、旅する蝶、アサギマダラの飛来地にもいきました。

7月の総会では、豊後大野市緒方町の里伝承体験館に集合して、旧緒方村役場を目指して、ショートフットパスで初夏の町並みを歩きました。

11月はふるさと拝見で玖珠町の豊後森駅旧機関庫に集合して、玖珠町文化財課の野口さんの案内で森の町並みを見学しました。

町並みとまちづくりを考える会は、今年度、町並みとまちづくりを考える会の会員の増加のために、リーフレット作成しています。ふるさと拝見を通して、知り合った方々に、町並みとまちづくりを考える会に入会して頂き、大分県内のまちづくりネットワークを作っていきたいと思います。

戸次本町街づくり推進協議会

設立年 1996年

会員数 総数64名(委員50名、顧問11名、事務局3名)

代表者 石井鏡成(会長)

所在地 〒879-7761 大分県大分市大字中戸次5115-1 大分市役所大南支所内:



玖珠町の豊後森駅旧機関庫



一般社団法人臼杵のんき屋

設立年 2018年10月

(前身 1975年10月)

会員数 10名

代表者 上野智代(理事長)

所在地 〒875-0053 大分県臼杵市平清水

11 組齊藤方

電話 090-2503-1027

FAX 0972-62-2590

Mail: macinami2590@gmail.com

臼杵市は、九州東岸の小都市であり、市街地は中世以来の城下町の町並みが残り、郊外には国宝、特別史跡の二重指定を受ける臼杵磨崖仏があります。本会は昭和50年に前身の「臼杵市の美しい町並みを守る会」として誕生し、「臼杵の歴史景観を守る会」から昨年度、一般社団法人臼杵のんき屋と体制を変えました。

本会では、現在、百年駅舎のJR上臼杵駅を拠点に活動を展開しています。日々の清掃等の管理業務を受ける



JR上臼杵駅駅舎での臼杵フットパス研究会の定例会



JR上臼杵駅の大清掃を周辺9自治会に呼びかけて実施



フットパスのコース探し。車の入らない急な石段の両側に武家屋敷跡が残る



臼杵フットパス。二王座地区を歩く

とともに、引きこもり青年の就業の場所として場所を提供するなど、駅舎の多面的な活用を進めています。

また、昨年来、町歩きの手法として、美里（みさと）方式と呼ばれる九州方式のフットパスを取り入れることとし、旧城下町地区だけでなく臼杵市内全体の歴史的環境、自然環境の保全に取り組んでいます。ウォーキングの延長でもなく、また史跡巡りでもない、地域とともにじっくりコースづくりを進める九州方式のフットパスは、多くの示唆に富み、可能性があると考えています。本会ではその推進役として臼杵フットパス研究会の事務局を担当しています。令和2年19月31日～11月1日には第12回となる全国フットパスの集い臼杵大会を開催する予定です。

さらに、新年度から3カ年計画で「文化財保存活用地域計画」の策定に臼杵市が取り組むこととなりました。これまでこうした計画づくりに取り組んでいなかった臼杵市としては大きな前進になると期待しています。私たちも、計画策定の重要な部分を担っていきたいと考えています。

油津堀川運河を考える会

設立年 1988年
会員数 9名
代表者 福田幸夫
連絡先 887-0031 宮崎県日南市大字戸高871番地
電話 0987-22-5599（日南大学）
0987-23-6952（福田）
Mail:f-yukio-owluncle-0730@btvm.ne.jp

平成5年から始まった油津堀川運河の整備も大詰めを迎えている。運河の護岸整備はほぼ終了し、残るは大正13年に完成した第一突堤の半分、運河に架かる石橋（堀川橋）と木橋（花峯橋）の改修である。2つの橋はいずれも国登録有形文化財である。

昭和63年から取り組んできた堀川運河の保存運動は、ようやくハード面の完成をみることになる。この間、本会はもとより、日南市産業活性化協議会（NIC21）、油津みなと街づくり委員会、合名会社油津赤レンガ館、チョロ船保存会など、数多くの団体が堀川運河を中心とした油津のまちづくりに取り組んできた。

こうしたことが評価されてか、油津まちづくり諸団体が、本年度の第4回自治体学会賞（2014年）の「田村明まちづくり賞」を受賞した。

現在進行中の中心市街地活性化基本計画とも相まって、市民と行政が一体となり、油津の町並みと堀川運河の魅力は今後とも発信していきたい。

平成27年11月、「旧鈴木旅館」について、原所有者が保存の意思をなくしたため、「油津堀川運河を考える会」が買い取って修理し、保存及び活用について、国の「民泊」についての動きには合わせられないが、旧旅館の状態を維持しながら、利用方法を今後も各団体からの情報で検討を進めていきたい。

「油津堀川運河を考える会」も「日南大学」と連携し、コンサート活動等を通じて、街づくりを応援していく。



旧鈴木旅館

美々津の歴史的町並みを守る会

設立年 1983年9月
会員数 167名
代表者 米沢敏明
所在地 〒889-1111 宮崎県日向市美々津町3244 日向市歴史民俗資料館内
TEL/FAX 0982-58-0443

竹富島まちなみ保存調整委員会

設立年 1982年5月
会員数 253名
代表者 属慎也
所在地 〒907-1101 沖縄県八重山郡竹富町字竹富1480
電話 090-8949-7476

昭和62年（1987）4月に全国で24番目に重伝建に選定された竹富島は、エメラルドグリーン海、咲き誇る色鮮やかな花々、情緒ある赤瓦屋根の家屋と連なる灰色の石垣、砕けた珊瑚が敷き詰められた白砂の道が代名詞となっており、これらは全て自然との共生を経て得た先人の叡智の積み重ねです。

その竹富島は、昭和61年3月31日に制定した『竹富島憲章』にて、観光を主産業とすることを島の総意として決議し、島興しと景観保全、伝統文化の継承を一体化して進めてまいりました。その結果、年間50万人もの来島者が訪れる景勝地として全国的に知られるようになりました。

しかし、この町並みが有名になればなるほど弊害も生まれ、島民の生活に支障をきたし始めました。そこで、竹富島では2019年9月から国内初の地域自然資産法を導入し、観光客の方々を対象に入域料を設定することで自然環境保全活動や土地の買い戻しを目的としたトラスト活動を行っています。課題は山積みですが、島本来の姿を取り戻すため、農村集落を復元し、自然環境と暮らしの調和がとれた島づくりを目指します。



海外

社團法人台灣歷史資源經理學會

(特定非営利活動法人台灣歷史資源經理学会)

設立年 2004年6月14日

会員数 50名

代表者 陳國偉(理事長、前輔仁大学博物館学研究所所長)
丘如華(秘書長)

所在地 〒100-43 台湾台北市中正區延平南路26號

電話 +886-2-2314-8080

Mail: tw.heritage@gmail.com

URL: http: iherm.org.tw

○活動目的

特定非営利活動法人の役割として、世界諸国との交流を通じ、海外から先進的な保存理念を台湾に導入し、歴史資源と空間環境の持続可能性を保つように管理し、国民の文化教養と生活スペースを向上させることにより、地域の魅力と地域経済振興を高めるようにする。また、国際的なNPO、NGOとの連携やネットワークを積極的に構築し、国際的な貢献や情報交流に取り組む。

○活動の特徴

国家政策より先に革新的な歴史資源保存または活用する理念を広め、実践し、歴史保存、都市開発または文化発展等の分野において、行政面、計画面、

実行面等あらゆる角から総合的にまとめて、台湾の有形文化財、無形文化財及び空間資源を調査、保存、活用、整備計画しながら、文化観光と地域産業振興に関する戦略を練り、組織形成や実行方法を研究、提唱、実行すること。

○活動の内容

①文化資産と空間資源の調査、保存または再生整備計画

大稻埕／迪化街の街並み整備、台北府城北門広場の再生、台北ビール工場の調査保存、国指定文化財の撫台街洋樓を教育スペースとしての運営、台北市歴史建築千軒の基盤調査等

②歴史資源管理に関するプログラムと学習教材の開発、または人材育成、市民教育

2019年に行ったイベント：例えば北門エリア歴史展覧、台北ビール工場見学、文化財防災講演会、2019年度小中学校新学習指導要領による鉄道文化資産教師育成ワークショップ等

③瀬戸内国際芸術祭の福武ハウスアジアアートプラットフォーム、アジア産業文化資産情報フォーラム等の組織に参加し国際ネットワークを構築

④文化資産の関する書籍を台湾に導入し、企画すること

西村幸夫『都市から学んだ10のこと：まちづくりの若き仲間たちへ』(2020年予定)、鈴木伸治『都市の

遺産とまちづくり：アジア大都市の歴史保全』



台北ビール工場の糖化釜



大稻埕／迪化街町並み整備_現在



大稻埕／迪化街町並み整備
整備前の1987年



台北府城北門広場再生_1995年以前の写真：高速道路の高架が撤去される前



台北府城北門広場再生_現在

2020年2月1日発行

発行所：

特定非営利法人全国町並み保存連盟

連絡先：

〒112-0001 文京区小石川5-3-4

ヴェリエール文京6階

(株) まちづくりカンパニー・シーブネットワーク内

電話：03-6240-0321

Mail: matinami@pop02.odn.ne.jp

URL: https://www.machinami.org/

★歴史的環境を守り・活かす活動にぜひご参加下さい

団体会員：

入会金 10,000円 年会費 30,000円

個人会員：

入会金 1,000円 年会費 5,000円

振込先：

ゆうちょ銀行 019- 当座 0195264